令和6年第1回蟹江町議会定例会会議録

招 集 年 月 日	令和6年3月15日（金）			
招 集 の 場 所	蟹江町役場 議事堂			
開 会 （ 開 議 ）	3月15日 午前9時00分宣告（第4日）			
応 招 議 員	1番	多 田 陽 子	2番	山 岸 美 登 利
	3番	志 治 市 義	4番	石 原 裕 介
	5番	飯 田 雅 広	6番	板 倉 浩 幸
	7番	三 浦 知 将	8番	吉 田 正 昭
	9番	加 藤 裕 子	10番	富 田 さ と み
	11番	伊 藤 俊 一	12番	水 野 智 見
	13番	安 藤 洋 一	14番	佐 藤 茂
不 応 招 議 員				

地方自治法第 121条の規定 により説明の ため出席した 者の職氏名	常特別勤職	町長	横江 淳一	副町長	加藤 正人
	政推進策室	室長	小島 昌己	政策推進課長	丹羽 修治
		ふるさと振興課長	太田 圭介		
	総務部	部長	鈴木 敬	次長兼 税務課長	鈴木 孝治
		安心安全課長	綾部 健	総務課長	藤下 真人
	民生部	部長	不破 生美	次長兼 環境課長	石原 己樹
		住民課長	戸谷 政司	保険医療課長	後藤 雅幸
		健康推進課長	小澤 有加	介護支援課長	松井智恵子
		子ども課長	飯田 陽亮		
	産建設業部	部長	肥尾建一郎	次長兼 まちづくり 推進課長	福谷 光芳
		土木農政課長	東方 俊樹		
	会計管理室	会計管理者兼 会計管理室長	森 実央		
	上下水道部	部長	伊藤 和光	水道課長	寺本 章人
		下水道課長	北條 寿文		
	消防本部	消防長	高塚 克己	次長兼 消防署長	竹内 豊
		総務課長	三谷 克利		
	教育委員 局	教育長	服部 英生	次長兼 教育課長	舘林 久美
給食センター 所長		浅井 修	生涯学習課長	佐々木淑江	
本会議に職務のため出席した者の職氏名	議事務会局	局長	萩野 み代	書記	荒木 慎介

議 事 日 程	議長は、次のとおり議事日程を配付した。 (会議規則第21条)
---------	-----------------------------------

- 日程第1 議案第19号 令和6年度蟹江町一般会計予算
- 日程第2 議案第20号 令和6年度蟹江町国民健康保険事業特別会計予算
- 日程第3 議案第21号 令和6年度蟹江町土地取得特別会計予算
- 日程第4 議案第22号 令和6年度蟹江町介護保険管理特別会計予算
- 日程第5 議案第23号 令和6年度蟹江町コミュニティ・プラント事業特別会計予算
- 日程第6 議案第24号 令和6年度蟹江町後期高齢者医療保険事業特別会計予算
- 日程第7 議案第25号 令和6年度蟹江町水道事業会計予算
- 日程第8 議案第26号 令和6年度蟹江町下水道事業会計予算

○議長 水野智見君

皆さん、おはようございます。

令和6年第1回蟹江町議会定例会継続会を開催しましたところ、定刻までにご参集いただきまして誠にありがとうございます。

議員のタブレット及び理事者の皆様のお手元に議会運営委員会報告書が配付されています。

議員の皆さんにお願いがあります。本日、申請に基づき、出席議員へタブレットの持ち込みを許可しています。利用される議員の皆さんは、傍聴者の方々に誤解を与えない利用形態としていただきますようお願いいたします。

ただいまの出席議員は14名です。定足数に達していますので、本日の会議を開きます。

ここで、去る3月13日に開催されました議会運営委員会の協議結果の報告を求めます。

議会運営委員長、安藤洋一君、ご登壇ください。

(13番議員登壇)

○議会運営委員長 安藤洋一君

皆さん、おはようございます。

議会運営委員長の安藤洋一でございます。

これから早速、去る3月13日に開催されました第2回議会運営委員会の報告を申し述べます。

1、意見書の審議結果について。

(1) 継続審議することになった意見書。ア、年金制度における外国人への脱退一時金の是正を求める意見書。イ、安全安心な保育を守り、職員が働き続けられる保育職場とするために、最低基準としての保育士配置基準を引き上げ、公定価格を抜本的に改善する意見書。ウ、職員の人権も福祉の対象者の人権も守るために、国に対して介護報酬と障害福祉サービス等報酬の引き上げと職員配置基準改善の意見書。以上、3件です。

(2) 不採択とすることになった意見書。ア、現行の健康保険証の存続を求める意見書。イ、小中学校の給食費無償化を求める意見書。ウ、医療・介護・福祉・保育など公的価格で運営される職場に対し物価高騰対策を今まで以上に行うことを求める意見書。エ、現行の健康保険証の存続を求める意見書。以上、4件です。

2、令和6年第2回(6月)定例会の日程について、これは、別添を参照願います。

月日、会議、そこまで読み上げてまいります。

5月24日金曜日、議会運営委員会。6月4日火曜日、議会の開会となります。その後、全員協議会。5日水曜日、4日に終了しなかった場合、全員協議会開く予備日となっております。12日水曜日、各常任委員会を行います。18日火曜日、一般質問。19日水曜日、引き続き一般質問。21日金曜日が議会の閉会となっております。

3、追加議案について。

令和6年度蟹江町一般会計補正予算（第1号）。この内容は、定額減税に係るシステム改修の追加補正予算であります。今議会の最終日、追加日程により審議、採決を行います。上程後、全員協議会を開催し、詳細について説明を受けることとなります。

4、税制改正に伴う町税条例の一部改正について。

今回の税制改正に伴う町税条例の一部改正については、議会を招集する時間的余裕がないと判断し、地方自治法第179条第1項の規定により、専決処分することといたしました。

5、臨時会の開催について。

日時、令和6年5月2日木曜日、午前9時から。

6、臨時全員協議会の開催について。

日時、令和6年5月2日木曜日、臨時会終了後となっております。

この臨時全員協議会は、臨時会の中の全員協議会とはまた別のものですので、皆さんお間違えのないように、よろしくお願いいたします。

7、その他。

(1) 6月議会議案説明会について。

日時、令和6年5月16日木曜日、午前9時、場所は3階の協議会室となります。

(2) 令和6年能登半島地震災害義援金について。

令和6年3月13日に、愛知県海部郡蟹江町議会議員一同として、日本赤十字社愛知県支部に14万円を寄託いたしました。

報告は以上です。

(13番議員降壇)

○議長 水野智見君

どうもありがとうございました。

本日の議事日程は、配付のとおりです。

これより予算案の審議に入ります。

議題に入ります前に議長から皆様をお願いをします。

質疑をされるときは、まずページ数と科目を言ってからお願いします。また、質疑及び答弁は努めて簡潔明瞭にされるようお願いいたします。

○議長 水野智見君

日程第1 議案第19号「令和6年度蟹江町一般会計予算」を議題とします。

提案説明は既に済んでいますので、直ちに質疑に入ります。

最初に、歳入歳出とも総括について質疑を受けます。

質疑は1人3回までとします。

○6番 板倉浩幸君

6番 板倉です。

それでは、今回の令和6年度の予算案について総括ということでお聞きしたいと思います。

代表質問のときにも石原議員のほうからの新風の代表で、今回125億3,424万5,000円の昨年に続いて過去最高の予算構成であります。歳入歳出とも見ても、特に歳入について町税なんかは減、1億8,000万円の減であり、歳出の面、今民生費が増えていくのは十分分かっております、土木費も含めてね。

今回この令和6年度の予算を構成するにあたって、歳入歳出とも含めてどのような構成で考えて予算構成したのかを、まずお願いいたします。

○総務課長 藤下真人君

それでは、板倉議員からただいま予算の構成についてというところでご質問いただきましたので、答弁させていただきます。

まず、議員のおっしゃるとおり、令和6年度予算額というのは過去最大の規模となっております。125億3,424万5,000円、こちらにつきましては、議員のもう既におっしゃるとおりのところの前年度が今までの過去最大でありました令和5年度は119億5,444万3,000円、比較しましてそれを5億7,980万2,000円の増加となっております。この過去最大となった要因につきましては、既に代表質問でもお話しさせていただいた繰り返しになりますが、都市計画道路の南駅前線整備事業がいよいよ本格化、また下水道事業会計の補助金、そして民生費の社会保障関係費が増加しているというのが最大となった原因となっております。

その中で、令和6年度予算関係資料4ページ目をご覧ください。

こちらの歳入の構成というところでご説明させていただきます。

1款の町税につきましては、50億8,820万1,000円、そして11款の地方交付税を除く2款から12款につきましては、約13.8億円、そして11款の地方交付税につきましては、14億100万円、そして国や県からの支出金として合わせまして23億7,871万2,000円となっております。これでは歳出予算額125億3,424万5,000円は満たすことができませんので、基金の取り崩し等をしまして予算をつくり上げたという形になります。

それでは、その19款の繰入金についてご説明させていただきますが、こちらで12億円の繰入金をさせていただいております。今回財政調整基金を7億円取り崩しております、また、特定目的基金の取り崩しとして、減債基金が2億円、下水道整備基金3億円、合わせまして12億円を繰り入れをさせていただいております。

また、20款の繰越金につきましては、1億2,743万3,000円を活用させていただき、また、22款の町債につきまして3億9,190万円を町債として借り入れまして、予算をつくり上げました。

構成につきましては、以上です。

○6番 板倉浩幸君

今答弁あったように、歳出だけで考えると全然足りないんだよね、やっぱり歳入が。そこ

で、今答弁あったように、基金を崩しながら、財政調整基金も7億円投入すると、もうどんどんなくなっていっちゃうんだけれども、最終的に決算でどうなるかということですけども。

土木費の関係ですよね、都市計画、その辺で足りないからということで、ある意味都市計画税の再導入ということになると思います。実際に、では再導入になった場合、仮にですよ、3億9,000万円という報告は聞いているんですけども、今年度の予算でも土木費の都市計画に充てる予算は10億円なんです。都市計画税だけではとても足りませんよね。そこで、じゃ足りない分をどうするかというと、今までどおり一般会計から繰り入れるしかないのかなということになっていく段階で、じゃ実際都市計画税が補えない分をどうしていくのか、今後のこともありますけれども、それをお願いいたします。

○総務課長 藤下真人君

板倉議員から今後の予算の運用というか、つくり上げについてご質問いただきました。今都市計画税というお話いただきました。また、それにつきましては、6月に条例等を上程させていただいて議論していただき、その結果で、また来年度について考えていきたいと考えております。

その中で、既に貴重な財源ですので、無駄なく、またしっかりと予算をつくり上げる中で、いろいろな国の事業であったり交付税措置がされるような事業につきましては、積極的にその交付税措置される事業を活用して事業を進めて歳入に充てる、後に交付税で措置されますので、そういった形でやり繰りをしておりますが、それをさらにしっかりと土木費についても国や県の補助金だったり、繰り返しますが、交付税措置されるような事業を優先的にやっていくという形で進めていきたいと考えております。

以上です。

○6番 板倉浩幸君

都市計画、土木費の増加によって本当に予算がつけにくいと思います、特にね。その辺を含めて、実際にじゃそれを考えると、じゃ都市計画税もやっぱり必要になってくるんじゃないかということになるんですけども、その辺ちょっと町長にも。本年度10億円と結果なって、都市計画税導入したとしても、本当に今言ったように足りない状況で、あとは国・県からの補助頼み、特に下水道なんかはそう、令和8年度まで、下水は下水でまた聞きたいと思うけれども、今後令和12年に61億円、これ補助金を含めた額なんですけれども、それを今後歳入にどう入れていくか、歳入の面をね。その辺を、今後の方針も含めてちょっと町長にお願いします。で、終わります。

○町長 横江淳一君

それでは、総括についてのご質問であります。ここで全てを申し上げるには、時間が多分足らな過ぎると思いますが。

歳入については非常に厳しい状況、これは今年に限ってだけでは実はなくて、私が町長に就任して以来、非常に厳しい状況が続いているのは事実であります。その中でも、先ほど担当が申し上げましたとおり、交付税措置ができるものは積極的に取りにいき、補助対象のメニューがあれば積極的に取りにいって、できるだけ自主財源を温存し、うちの監査委員さんにも言われましたとおり、依存財源に頼るだけではこの先、先細りになってしまいますし、それ以上のこと、蟹江町独自さがもうなくなってしまいます。ですから、それをやっぱり維持するためにも自主財源の確保というのは、これ必須でありますね。

そういう意味でいくと、大体年間一般会計の1割強を財政調整基金で持つというのを目的にしてこの十数年やってまいりました。当初私が町長に就任して以来は、財調はもっと少ない、目的基金はたくさんございましたけれども、それでも財政運営としては非常に健全財政を保ってきたつもりです。でも、健全財政を保つことが町に住む皆さんが幸せになるかというと、そうばかりではなくて、積極的に予算を組み、積極的に前へ自治体を進めていくというの、これからの自治体の運営だと思っています。

そういう意味で、先ほど言いましたように都市計画税を全てそれに上げるのではなくて、都市計画税はご存じのように目的税であります、用途は限られてございます。ただし、その目的税に使うべき財政のお金を一般会計から実際繰り出しているのが現状であります。国保もそうでありますし。それを少なくとも出すお金を少なくして一般財源を確保しつつ、皆さんのニーズに合うような、そんな施策をこれからもやっていかなければいけないと思います。

それと、都市計画事業、区画整理事業をやりますと当然市街化区域になります。税金が調整区域と比べて上がるのは、これ必然であります。これは税法上仕方がないというふうに思います。そこからいただける税を皆さんに平等にしっかりと分けるようなことができればいいと思いますし、今回、富吉駅南のまだこれからですから、どれぐらいの事業費がかかるかについては、まだまだもう少し後にはなります。しかし、地域の皆さんに申し訳ないですけども減歩という非常に厳しい状況を飲んでいただきつつしっかりと市街化形成をし、蟹江町を税収豊かな町にするというのを、ちょっと厳しいかも分かりませんが。

11.09平方キロメートルの小さな町であります。何度も申し上げましたとおり、本当に自立できるすばらしい町だと自負しております。そんな中でバランスの取れた財政出動をしていくためにも、決して都市計画税に私ども頼っているわけではなくて、税金の使い方というのはしっかりこれからも考えていかなければいかんと思っています。特に子育て、高齢化対策、これは言うに及ばずでありますので、何とぞご理解のほどよろしく願いいたします。

○議長 水野智見君

他にありませんか。

(発言する声なし)

他に質疑がないようですので、総括を終わります。

続いて、歳入について、12ページから29ページまでの質疑を受けます。

質疑は1人3回までとします。

○6番 板倉浩幸君

それでは、歳入に絞ってお聞きいたします。

12ページ、13ページで、先ほど総括でも聞いたんですけども、町税の減収を見込んでいるんですけども、この内訳、個人、法人とも減収ということで、その辺のどうしてこの減収の予算立てをしたのか。

あと、地方特例交付金があります、次のページ、14、15ページに地方特例交付金があります。これが、前年4,400万円が今回2億2,300万円になって、内訳も説明であるんですけども、この点を詳しくお願いいたします。

○総務部次長兼税務課長 鈴木孝治君

今、町税の減収についてご質問いただきました。

まず、個人町民税のほうなんですけど、今ご指摘いただいたように定額減税が今回ございますので、その分でかなり減収ということになっております。個人町民税につきましては、定額減税でマイナス1億8,000万円を見込んでおります。もしそれがなければ、前年に比べて4,500万円の増になる予定でございました。

法人につきましては、こちらにつきましては、前年というか、細かいこと言いますと前々年の10月から前年の9月までの実績を基に算出してしておりますので、実績が下がってきたということでございます。

あと、固定資産税が2,000万円ほど下がっておるんですけども、令和6年度が評価替えの年になりまして、家屋が全体的に経年減点補正率がかかりまして下がりますので、それが一番大きな原因となっております。

あと、14ページ、15ページの地方特例交付金のところですが、説明欄03番の定額減税減収補てん特例交付金というのが、こちらが1億8,000万円ということで、町税の減収のほうとこちらのほうは数字を合わせております。

以上でございます。

○6番 板倉浩幸君

実際にはこの間もあった4万円の交付金だよ、地方税で1万円分、それを考えなければ4,500万円の増ということで、確かにコロナが5類になってどうなのかなというところはあるんですけども、それを見込んでいると。その分を、1億8,000万円減収する分を、丸っと地方特例交付金で補ってもらえるということですね。

あと、同じく14、15ページの教育費負担金の分の小中学校の保護者負担金、給食費なんだけれども、この3月まで半額補助ということで公費から。滞納分なんですけれども、今現状この半額補助もしていた中で滞納金が、滞納というか保護者のまだ回収できてない、この辺

の金額等が分かりましたらお願いいたします。

○教育部次長兼教育課長 館林久美君

現在の滞納金額、給食費についての滞納金額なんですけれども、ごめんなさい、正確な数字は把握していないんですけれども、おおよそ100万円前後だと把握してございます。

以上です。

○6番 板倉浩幸君

正確には、まあ100万円ぐらいじゃないかということで、実際にでも予算ではその100万円を見込むわけじゃないんですよね。じゃ、半額公費負担もしながら過年度分、もっと前のやつもあるかもしれないんだけど、じゃ実際にその人たちがどういう人なのか、本当に厳しくて払えない人だったら就学援助制度もありますし、そのつなぎが今現状どうなっているのか、お願いいたします。3回目だね、それを聞いて終わります。

○教育部次長兼教育課長 館林久美君

ご心配ありがとうございます。今の状況といたしまして、今100万円と申したんですけれども、その中には遅れながらでありますけれども納めていただいている方もございます。中に本当に困窮している世帯もございますので、その方々には就学援助という形の制度のお知らせを学校もしくは広報なりでさせていただいております。あと、生活保護の方につきましてはもう全部が補助されますので、そのあたりは心配ないかと思うんですけれども、そうではないつなぎの部分ですよね、そこの部分については、年度の初めに、新年度が始まったところで、やはりまだ就学援助の制度を知らない方もおみえになるかと思っておりますので、一斉に何かアナウンスできる、保護者の方に直接アナウンスできる方法をちょっと探しているところでございます。

以上です。

○議長 水野智見君

他に質疑はありませんか。

(発言する声なし)

他に質疑はないようですので、歳入を終わります。

ここで、消防長、上下水道部長、教育部次長兼教育課長の退席と、住民課長、会計管理者、安心安全課長、政策推進課長、ふるさと振興課長の入場を許可します。

入れ替えのため、暫時休憩します。

(午前9時27分)

○議長 水野智見君

休憩前に引き続き会議を開きます。

(午前9時29分)

○議長 水野智見君

歳出は、款別に質疑を受け、款別ごとに1人3回までとします。

1款議会費、30ページから33ページまでの質疑を受けます。

(発言する声なし)

質疑がないようですので、1款議会費を終わります。

続いて、2款総務費、34ページから89ページまでの質疑を受けます。

○13番 安藤洋一君

13番 安藤洋一です。

57ページのまちづくり推進交付金、これ700万円ですけれども、私の調べたところ、令和5年度はたしか750万円だったかなと思うんですけれども、この50万円の減額はこういった考えからなのか、ちょっとお聞かせください。

○ふるさと振興課長 太田圭介君

ただいま安藤議員からご質問のありました、まちづくり推進交付金の50万円の減額の要因でございますが、こちらにつきましては、令和6年度、補助対象経費を見直したりだとか補助率を変えたりだとか、そういったことは一切行っておりません。ただ、この交付金が最も活用された令和元年度の決算額といたしましては480万円でございます。今年度の決算見込額といたしましては420万円ほどとなっておりますので、これら決算額ですとか近年の実施状況等々を踏まえた予算額を計上させていただきました。仮に新たな区や町内会がこの交付金を活用して事業を実施しても十分耐え得る予算を措置したところであります。

以上でございます。

○13番 安藤洋一君

ありがとうございます。そういう決算、実際の使用の状況を見てのことと言うことで一応安心しましたけれども、コロナ禍が明けて5類に下がって、これから各地域、町内会、いろんな団体の行事が復活してくる、やるぞという機運が高まる中で減額が影響のないように、その機運をしばませることのないように、ご承知お願いいたします。やっぱり町内会をはじめとする各諸団体と行政というのは非常に密接な関係があるというか、かなりお世話にならないかん場面があると思いますので、やっぱりその辺は重視していただいて、しっかりとそういうバックアップができるように体制をお願いしたいと思います。

以上です。

○7番 三浦知将君

55ページの国際交流事業、こちら委託料で姉妹都市提携交流事業の委託料に中学生海外派遣交流事業に1,400万円ぐらい予算で充てられているんですが、この具体的な内訳、どこに支払われているのかを教えてくださいたいです。

○政策推進課長 丹羽修治君

今回の姉妹都市提携交流事業の中学生派遣交流事業のほうの委託料の内訳のほうなんです

けれども、主に渡航費のほうの航空チケット等の費用と、またそれに伴う食費、また宿泊費、また向こうに着いた後の移動になりますバスの利用料と、そのほか燃料やタックス費用等になってきます。

以上となります。

○7番 三浦知将君

ありがとうございました。こちらは代表質問でもさせていただきましたが、中学生が8人派遣されるということなので1人当たり大体180万円ぐらいかかるかなと思いますね。そのあたり、また費用対効果とか、今後いろいろと何か情報も共有していただけるということでしたので、本当に費用対効果を考えていただいて、またいろいろとご検討をよろしくお願ひします。

以上です。

○2番 山岸美登利君

2番 山岸です。

予算書67ページ、防災関係ですけれども、委託料のところでは防災行政無線保守点検委託料が昨年よりちょっと拡充されていますので、どのような理由なのか教えてください。

また、ちょっと下になりまして、防災ボランティアコーディネーター養成講座、また防災リーダーの講座があったと思いますけれども、こちらの講座の受講人数ですね、受講人数がちょっと分かれば、これ4市2町1村で開催されていると思いますけれども、町内の受講人数等を教えてください。

もう一つが、ちょっと下にいきまして非常用の備蓄食料等とございます、575万7,000円、これの詳細を教えてください。

○安心安全課長 綾部 健君

ご質問の3点についてお答えさせていただきます。

まず、1点目の防災行政無線の保守点検委託料の増額についてでございます。

防災行政無線は、平成30年4月にデジタル化に伴って運用開始してから既に5年が経過しております。このため、町内に設置されております屋外スピーカー49カ所、こちらの総点検を実施する予定でございます。点検の内容といたしましては、スピーカーやアンテナの緩みがないかなど固定状況の確認のために増し締め点検を実施いたします。昨年より123万2,000円の増額となっております。

続いて、蟹江町の防災ボランティアコーディネーターの受講状況についてお答えさせていただきます。

防災ボランティアコーディネーターのフォローアップ講座がございまして、蟹江町では累計52名の方が受講されております。さらに、防災リーダーにつきましては、68名の方が過去に受講していただいております。

続いて、非常用の備蓄食料の内訳についてでございますが、令和6年度の整備する主な非常食につきましては、アルファ化米が7,800食、カンパンが4,800食、飲料水が、これ500ミリリットルのペットボトルで5,250本となっております。

以上でございます。

○2番 山岸美登利君

ありがとうございます。

分かればですが、防災リーダー、防災ボランティアコーディネーターの今後の開催会場とかが分かれば教えてください。

○安心安全課長 綾部 健君

次年度以降の開催地でございますが、まず、ボランティアコーディネーターの養成講座、これ次回開催地があま市を予定しております。それから、防災リーダーの養成講座につきましては、愛西市を予定しております。日程につきましては、まだ未定でございます。

以上です。

○6番 板倉浩幸君

総務費から何点かお聞きしたいと思います。

まず初めに、41ページ、ここで聞かないいけないと思うんですけども、住民基本台帳のことで決算のときにも聞いて一般質問で聞いて、住民基本台帳を活用した自衛隊の名簿提供の話です。12月の質問でも、ぜひ除外申請をやっていききたいという話でしたけれども、そこで実際今年度はどういう体制を取っていったらどうなっていくのか、まずそこをお願いいたします。

次に、51ページの平和祈念事業です。平和祈念事業ということで予算関係資料にもちょっと詳しく書いてあります。3万5,000円増加ということで68万5,000円という予算になっているんですけども、前々からリレートークをぜひやったらどうだということも聞きながら、今回この内訳もちょっとお願いいたします。

また、先ほど山岸議員からも防災関係の消耗品関係で、67ページですけれども質問があったとおり、備蓄品で何を買うかということで、アルファ化米からカンパン、飲料水ということです。今必要になってくるのは、避難所の運営で段ボール関係のベッド等、またパーティションの関係、かさばるから何ともならないんですけども、まだまだ少ないと思います。実際に、じゃアルファ化米、カンパン、飲料水等含めて備蓄品を購入してどこに置いていくのか。基本、防災倉庫になるのかなとは思いますが、まずその辺を。

以上、まず3点お願いします。

○住民課長 戸谷政司君

それでは、ご質問いただきました自衛隊の名簿提供についての除外申請の件にお答えさせていただきます。

こちらにつきましては、前回の議会の一般質問でいただきまして、その後整備をさせていただきます、今要綱を作成し終わったところです。

流れといたしましては、4月号の広報に記載をさせていただいて、詳細はホームページのほうに掲載をして除外申請を受け付けるという流れで今進めておりますので、もう間もなくホームページのほうに掲載をさせていただくという流れになっております。あと、住民の皆様には広報のほうで、ちょっと小さい記事になるかもしれませんが、その中で記載させていただいて、詳細についてはホームページを確認していただき、必要に応じて提出をいただくという流れで考えております。

以上でございます。

○政策推進課長 丹羽修治君

続きまして、平和祈念事業のほうの3万5,000円の増額についてお答えさせていただきます。

今回平和リレートークをコロナも明けまして再開させるにあたり、戦争体験講話を再度やりたいと考えております。そのための語り部の方への謝礼であったり、平和リレートークにおいて音楽を通じて平和について考えてもらう機会を設けるため、音楽会のほうの謝礼のほうを増額させております。

また、通信運搬費で郵便料のほうも増額させていただきました。こちらのほうは、原爆パネル展において高校生の絵のほうを展示したいと考えまして、広島平和記念資料館のほうに印刷用のデータのほうをいただくための郵便料のための増額となっております。

以上でございます。

○安心安全課長 綾部 健君

板倉議員からは、防災資機材の備蓄についてご質問いただいております。

来年度購入予定の防災資機材につきましては、車椅子対応型のトイレ2式と、それから間仕切りが12式、簡易ベッドが6式、段ボールベッドが6式、こういったものを希望の丘に備蓄する予定でございます。こちらは、南海トラフ地震の補助金を使っての購入となります。

また、段ボールベッドが非常に少ない、またどこに置くのかというご質問なんですが、現在段ボールベッドに関しましては防災倉庫、それから多世代交流施設、図書館、産業文化会館に合計200セット設置してございます。

以上でございます。

○6番 板倉浩幸君

まず、自衛隊の名簿、本年度も提供するという考えですよね。その辺がどうなのかということはあるかもしれませんが、除外申請を本当にどう広げる、あったけれども知らないということが、やっぱりどこの自治体でも周知の仕方をどうしていくかだと思いますので、まず広報に掲載して、ホームページも詳しく載せるということで、その辺を考えていっていただきたい

と思います。

あと、平和祈念事業については、リレートークをまた復活させて、今言ったように音楽祭から講話によって開催すると。やっぱりリレートークで平和記念式典行って、確かに中学校の文化祭で報告もあるんですけども、もうちょっと幅広くいろんな場所で行った方のお話、生徒の話が聞けるといいかなと思います。

あと、高校生の絵についても、前々からぜひ展示をしてほしいということでその辺で、無料で郵送料だけで済むんですよ。これで平和事業をもっと推進していただきたいと思います。

防災倉庫、防災対策整備費の関係です。今、段ボールベッドもパーティション関係も6式、6式ということで、全体的に200幾つになるのかな。防災倉庫、また各種大きい避難所に入れていく段階で、今問題にこれからなろうとしてくるのが、防災倉庫に入れて、じゃ実際に震災があった場合に各避難所にどうやって運ぶんだという問題もやっぱりあると思います。また、備蓄品を買って各避難所のどこへ置くんか、特に小学校、中学校の体育館なんかにはとても入り切れないと思うし、その辺を今後、やっぱり備蓄品を増やすことが大事ですけども、場所を今後どのように確保していくのか、お願いをいたします。

○安心安全課長 綾部 健君

防災倉庫に備蓄されている備蓄品をどのように各避難所のほうに運搬するのかというご質問なんですけど、現在町では運搬するトラック、また車両台数も非常に限られております。そういった場合に物流会社との支援協定を締結しております、こういった物流会社のトラックもしくは搬送車を活用して各避難所のほうに搬送していきたいと考えております。

以上でございます。

○6番 板倉浩幸君

町のトラックもそこまでないから、そういうことになってくるんだと思うけれども、じゃ今言われている南海トラフとかあった場合に、液状化の話で、蟹江町は道路が本当に大丈夫なのか、物が本当に運ばれるのかという問題もやっぱり考えていかないけないと思います。その辺の今現状、安心安全課として、もし道路が、能登のときにも道路が傷んで、もうやっぱり通行ができない状況がありましたけれども、蟹江町も液状化でまずどうなのかなというのがありますので、今後の方針も含めた回答をお願いしたいと思います。

もう一つ聞き忘れたことで、多分これ3回目です。

お散歩バス、53ページのお散歩バスについてちょっとお聞きします。

現状今、平成30年12月に更新して5年間の契約で、今契約が終わって再リースになっていますよね。今後のリースの関係を1年更新だと決算のときにも聞いたんですけども、この辺の今後の方針的なことをお願いして、終わります。

○総務部長 鈴木 敬君

それでは、議員からの1問目、災害、道路等が破損してしまったらどのように配送するかですが、現状、まだそこら辺までは想定されてない状況なので、今現在、先ほど課長からも答弁がありましたとおり、協定を結ばせていただいている業者と相談しながら、検討しながら、次のステップを踏んでいきたいと思っております。

以上でございます。お願いします。

○ふるさと振興課長 太田圭介君

先ほどの板倉議員の質問に対することにつきまして、ご回答のほうさせていただきたいと思えます。

まず、お散歩バス事業につきましては、ただいま総務民生常任委員会のほうにおいてもご検討、ご提言をいただいているところでございます。

この先、現在のお散歩バスの運行形態の見直しですとか、場合によっては新たな移動手段の導入というところも想定がされるところでございます。また、昨今の自動車の運転免許証の自主返納ですとか、自家用車を持っていない方の移動手段の確保というところ、またバス停まで移動が困難な方の増加を踏まえますと、当町の公共交通の在り方というものを見直す時期に来ているのかなというふうにも考えております。

ということ踏まえまして、当町を取り巻く環境の変化に柔軟に対応していくため、単年度で区切りながら、利用者にとっても有益な改善を図ってまいりたいということで1年ごとのリース契約としております。

以上でございます。

○1番 多田陽子君

1番 多田陽子です。

63ページの自転車乗車用ヘルメット着用促進事業費の補助についてお尋ねします。

令和4年度の決算を見ますと17万円ほどの決算があり、そして令和5年度の予算は83万2,000円、そして今回114万円まで枠が広がったのは、どのような理由でしょうか。

○安心安全課長 綾部 健君

ただいま多田議員からヘルメットの増額についてご質問がありましたので、お答えさせていただきます。

今年度令和5年4月1日付で道路交通法の改正が伴いまして、それに伴ってこれまで13歳未満のヘルメットの努力義務化が示されておりましたところ、全年齢枠にその努力義務が拡大されました。よって非常に購入者が増加いたしまして、その関係でヘルメットの予算額も拡充させていただきました。

以上でございます。

○1番 多田陽子君

ということは、この令和5年度はだいぶ補助の申請が多かったということで解釈させて

いただいでよろしいでしょうか。

○安心安全課長 綾部 健君

令和4年度の申請数が96件に対して、今年度令和5年度が422個の申請がございました。かなりの数の増加となっております。

以上でございます。

○1番 多田陽子君

では、最後に、要望として上げさせていただきたいんですけども、こちらでは7歳から18歳まで、もしくは高齢者65歳以上というふうに限られていますが、県からそのように出ているということは承知なんですけれども、7歳からというところに対して、まずは自転車の練習を始めるのは大体幼稚園の頃が多いので、初めて購入をするのはそれぐらいの年齢という家庭が多いと思います。ですから、7歳からというところにしても、なかなかその年齢で購入を考えると少ないと思いますし、また、私たち大人は子どもに対して、ちゃんとヘルメットをするんだよ、シートベルトをするんだよという見本にならなければならない人だと思いますので、できれば18歳から65歳までというところも今後拡充を考えていただければと思います。よろしくをお願いします。

○安心安全課長 綾部 健君

ただいまご質問のありました全年齢枠について補助を実施してはどうかというご質問に対して、お答えさせていただきます。

現在愛知県の自転車ヘルメット補助事業に関しましては7歳から18歳まで、また65歳以上という年齢枠で定められております。よって、蟹江町も来年度はその年齢枠で補助事業としてさせていただく予定でございますが、今後県の方針が変わり次第、またこちらのほうも検討していきたいと考えております。

以上でございます。

○10番 富田さとみ君

安心安全課の件ですけれども、67ページだと思います。

資器材を購入予定とありますが、何を購入される予定なのか。

それから、各町内に補助金が175万円予定されておりますが、今までに全町内が使っているのかということとかを教えてくださいたいです。

○安心安全課長 綾部 健君

まず、防災資機材の購入について来年度の予定はというご質問について、お答えさせていただきます。

来年度の防災資機材の購入予定につきましては、希望の丘広場に対しまして車椅子の対応型トイレが2式、それから間仕切りが12式、簡易ベッドが6式を購入予定でございます。

次に、自主防災組織育成事業の助成交付金につきましてお答えさせていただきます。

令和5年度につきましては、消火器具が21町内会、また、備蓄食料については7町内会が活用していただきました。

以上でございます。

○議長 水野智見君

他にありませんか。

(発言する声なし)

他に質疑はないようですので、2款総務費を終わります。

ここで、総務部次長兼税務課長、会計管理者、安心安全課長、政策推進課長、ふるさと振興課長の退席と、民生部次長兼環境課長、保険医療課長、健康推進課長、介護支援課長、子ども課長の入場を許可します。住民課長、総務課長は席を移動してください。

入れ替えのため、暫時休憩とします。

(午前9時56分)

○議長 水野智見君

休憩前に引き続き会議を開きます。

(午前9時58分)

○議長 水野智見君

続きまして、3款民生費、90ページから123ページまでの質疑を受けます。

○5番 飯田雅広君

5番 飯田雅広です。

3つあります。

まず、93ページ、重層的支援体制整備事業への移行準備事業費、委託料です。代表質問でも重層的支援体制整備の質問あったんですけども、ちょっとお聞きします。前年は557万円の予算がついていたんですけども、令和6年度は100万円ぐらいプラスになっています。恐らくコーディネーターか何かの人件費だと思うんですけども、100万円増えている理由をお聞かせください。

2つ目、107ページの子ども会補助金35万円ですけれども、これの計算根拠、計算の方法を教えてください。

3つ目、111ページの三人乗り自転車活用支援事業ですけれども、こちらのほうなんですけれども前年は79万5,000円でした。令和6年度の事業費は84万円です。少し増えているんですけども、台数は30台のままだと思います。かつてはすごく人気のあった事業で抽選をしていたということなんですけれども、ここ近年は申込みも落ち着いてきているということで、ある程度事業としての役割を少しずつ終えてきているのかなというふうに思っているんですけども、そんな中で予算も増えていますので、どのような理由があって増えているかを教えてください。

○住民課長 戸谷政司君

それでは、ご質問ございました重層的支援体制整備事業への移行準備の委託料の増額についてお答えさせていただきます。

こちらの予算につきましては、議員言われるとおり昨年は557万円、今年度が653万円ほどで、約96万円ほど上がっております。昨年度につきましては、初年度ということでCSW、コミュニティソーシャルワーカーの人件費が主な積算というところだったんですけども、今年度増額の理由といたしましては、人件費のまずベースアップが1点、相談支援を行っていく上でいろいろと事務費とか備品とか、そういったものに係る事業費の部分が昨年は計上してございませんでしたので、そのあたりも今年度はちょっと計上したというところで、96万円ほどの増額となったところでございます。

以上でございます。

○子ども課長 飯田陽亮君

私のほうから、飯田議員から質問のありました、まず、子ども会の補助金の積算根拠ですね、そちらのほうにお答えさせていただきます。

こちらの積算は、子ども会の会員数掛ける250円で計算しております。

続きまして、2点目の三人乗り自転車の予算の増額に関してご答弁させていただきます。

こちら、物価高騰による自転車の金額の上昇分としております。全体としては30台ありますが、そのうち4台を買い換え予定としております。この三人乗り自転車の事業につきましては、子どもが小さい時期に限定的に必要なもので、安全が保障された電動アシスト付きの自転車を貸し出すことで利用者に喜ばれているものでありますので、今後も必要な台数は精査しながら事業の継続を図っていきたくと思っております。

以上でございます。

○5番 飯田雅広君

重層的支援体制整備の件なんですけれども、こちらのほうは令和3年4月の社会福祉法改正によって創設された制度になるかと思えます。大体少しずつこの事業がほかの市町村で始まっているんですけれども、それでは、この蟹江町ですけれども一体どれぐらいこの準備事業に時間を割いて、いつから始まる予定を今しているのか、教えていただきたい。

子ども会の補助金なんですけれども、先日、須成区の総会みたいなものに参加したんですけども、その場で子ども会の方から、ちょっと人数が減っているのといろんな物価高の影響でなかなかちょっと苦しいということで、須成区から補助金出ているんですけれども、もう少し増やしてほしいというような要望を須成区長にされておりました。やはり給食費も40円上げるというのもありますので、やはり子ども会さんもいろいろ苦しい状況だと思います。多少もう少し増やしていただけないかなというのを思いますので、そのあたりいかがでしょうか、お答えいただけますか。

○住民課長 戸谷政司君

それでは、ご質問いただきました重層的支援整備事業への移行時期というようなご質問でございました。

こちらにつきましては、現在は準備段階ということで相談支援の体制をまず整えるというところで事業をさせていただいております。

今後の予定といたしましては、ちょうど6年度、7年度のところで福祉計画の見直しがございますので、その時期に合わせましてその地域福祉計画の中に重層に係る計画的なものを盛り込みながら、令和8年度ぐらいをめどにやっていければなというところで今考えておるところですので、少しずつにはなると思うんですけども、いろいろな体制を整えてやれる方向で進めたいというところで今考えております。

以上でございます。

○子ども課長 飯田陽亮君

子ども会の会費についてのご質問にお答えさせていただきます。

子ども会の活動の財源としましては、まず町の補助金のほか、社会福祉協議会の助成金、それから共同募金の配分金、町内会からの助成金等から成り立っています。昨今の役員のなり手不足、それから加入率の低下等、運営が困難であるというお声は聞こえてくるんですけども、お金を使う事業全てがこの子ども会活動ではないという意見もございますので、そのあたりはご理解いただき、また中には町内会で廃品回収をして、それで得たお金を活動の一部に充てているというところもございます。

子ども会活動は、児童の健全育成、また地域とのつながり、学年を越えた交流等、必要な事業だと思いますので、工夫をして活動を続けていただきたいと思います。

以上でございます。

○5番 飯田雅広君

子ども会の事業に関しましては今廃品回収というお話もありましたけれども、やはり昔と比べると廃品回収する量も多分減ってきていると思いますので、なるべく暖かくフォローしていただければなというふうに思います。

重層に関してなんですけれども、何か聞こうと思っていて忘れちゃったな、何だったかな。重層なんですけれども、あれ、度忘れしちゃった。

はい、いいです、また聞きます。

○6番 板倉浩幸君

民生費、ページ数でいくと97ページ、あと予算関係資料にも29ページに詳しく載っている障害者の福祉タクシーの料金助成で330万8,000円ついています。これ、関係資料にもあるように、平成30年度からチケットが36枚から48枚ということで増額しているんですけども、その対象者になる人、対象者だね、その内訳をちょっとお願いします。

○保険医療課長 後藤雅幸君

ただいま福祉タクシーについてご質問いただきました。

現在福祉タクシーの交付対象となっておりますのが、身体障害者手帳の1から3級をお持ちの方、また療育手帳のA、B判定をお持ちの方、また精神障害者保健福祉手帳の1、2級をお持ちの方に対して福祉タクシーを交付しております。

以上でございます。

○6番 板倉浩幸君

今答弁あったように身体障害者3級からの人とあるんですけども、じゃ実際に48枚使っただけのぐらい増やした効果が出ているのか、多分予算削るわけじゃないから利用する枚数もそれだけちゃんと使ってもらえているのか、ちょっと確認して、まず終わります。

○保険医療課長 後藤雅幸君

それでは、福祉タクシーの利用率、伸びというところで申し上げますと、まず、令和2年度の発行枚数、枚数というのは束のことを指しますけれども、502枚発行しております。また、令和3年度におきましては471枚ということでちょっと減っておりますけれども、令和4年度に関しましては528枚ということで、全体を通しますと増加傾向ではございます。

以上でございます。

○6番 板倉浩幸君

最後なんですけれども、じゃ実際にそれだけ利用者に利用してもらっています、障害者の足の確保もしながら。じゃ、同じく税金の関係でも障害者認定で控除もある。じゃ、介護認定者、今現状蟹江町ないんですけれども、介護認定者にも配付している自治体もあります。要望として、その辺にも拡充をしながら、認定者でもやっぱり足が悪くて介護認定もらっていますよという方もいますので、その辺も含めてもうちょっと拡充をお願いしたいんですけども、いかがでしょうか。

○介護支援課長 松井智恵子君

今、板倉議員からご質問がありました介護認定者の方についての拡充についてですけれども、現在そのような拡充の検討はしていないところでございますが、介護認定者も含めて高齢者の移動手段ということは今大変な問題となっていることは認識しておりますので、先ほどふるさと振興課長からの回答、お散歩バスの件で回答させていただいたとおり、蟹江町にあるいろんな公共交通機関も含めて整理していく必要があると考えております。

以上でございます。

○8番 吉田正昭君

8番 吉田です。

99ページの中ほどの移動支援事業補助金ですね。この件に関してと、それから、111ページのまち・ひと・しごと創生事業の町内遊びイベント・場所支援事業ですね、これに関して

どういものかということをちょっとお聞きしたいと思います。

○介護支援課長 松井智恵子君

移動支援事業費補助金の件でよろしかったでしょうか。

99ページの移動支援事業補助金、こちらは、住民主体の高齢者の移動支援事業を実施する団体、通称かにあしというものですけれども、そちらの事業を行っている団体に対して補助を行っているものでございます。

以上でございます。

○子ども課長 飯田陽亮君

続きまして、吉田議員からご質問のありました、まち・ひと・しごと創生事業の町内遊びイベント・場所支援事業につきましては、昨今、日頃外遊びをしない子どもたちが増えている中で思い切り外遊びをして、年齢を問わず子どもから大人、お年寄りまでが熱中できる遊びのイベント等を開催して、それを体験してもらうというような事業内容になっております。

以上でございます。

○8番 吉田正昭君

移動支援はかにあしのことですよね。これは社会福祉協議会に委託しているというふうに思っているんですが、この金額を社会福祉協議会のほうに出して運営を任せているということの解釈でよろしいですね。

それから、もう一つ、先ほどの遊びのほうですね、空き地など安全対策を講じながら遊び場として住宅地内の道路やということで、この場所はどこでしてみえますでしょうか。

○介護支援課長 松井智恵子君

今、吉田議員からのご質問でございますけれども、移動支援を行っている団体ということで、かにあしのこと間違いございません。こちらの事業につきましては、社会福祉協議会のほうに一旦補助金を出しております、社会福祉協議会が活動支援しながら自主運営で行っていただいている移動支援事業でございます。

以上でございます。

○子ども課長 飯田陽亮君

遊びのイベントの場所なんですけれども、なかなか生活で利用する道路等を利用することは難しいこともありまして、こちらの事業はNPO法人のにこにこママネットワークさんと協働で行っておるんですが、その法人さんが主催するイベントの中で一部の道路を占有して、そこに絵を描いたりとかというような遊びをしたりしています。また、今年度につきましては、町民まつりの中でブースを設けてシャボン玉をして遊んだりとか、そういったものをしております。

以上でございます。

○民生部長 不破生美君

すみません、ちょっと第1問目のところで補足をさせていただきたいんですけども、かにあしのほう、吉田議員、委託をしているのかというお話をいただいておったんですけども、委託という形ではなくて団体への補助金という形になりますので、よろしくお願ひいたします。

○8番 吉田正昭君

そうしますと、社会福祉協議会が独自にしている事業として考えてもいいということですよ。

もう一つ、先ほどの遊びの件なんですけど、4年度も予算7万2,500円執行して、また、5年度も事業されたと思いますし、6年度もこの事業が継続していくということでここで予算が計上されていると思いますが、これ最近、昨今皆さん子どもさんの遊ぶ場所が少ないとか、いろいろ外遊びも少ないように思っていますので、ぜひこの事業をもう少し拡げていただこうようにお願いしたいと思います。

○介護支援課長 松井智恵子君

すみません、大変失礼しました。かにあしという自主活動に対して、社会福祉協議会を通じて補助をしているものでございます。

以上でございます。

○子ども課長 飯田陽亮君

吉田議員からお言葉いただきました。このようなイベントをほかのところでも開催できるかを検討しながら、拡大を考えていきたいと思ひます。

以上でございます。

○1番 多田陽子君

1番 多田陽子です。

まず、105ページの子どもの医療費についてなんですけれども、私たち議員のところにも学級閉鎖の知らせというのが本当にたくさん届いてきて、子どもの医療費はどんどんどんどん今後も膨らんでいくんだろうなと感じています。それに対して、子どもの免疫力を上げるだとか、何かそういった体を変える生活習慣を変えるなどの取り組みに何かしらのことはしているのかを、まずお尋ねさせていただきます。

次に、117ページのファミリーサポートについてお伺ひします。

ファミリーサポートというのがそもそもどのような目的の事業なのか、それに430万円をかけているのか。ファミリーサポート、何件の実績があるという話はあるんですが、実際何名の方が利用していて、どれぐらい時間として使われているのかということもよく分かりません。

あと、子育て支援センターも児童館との違いが分からず、694万円も委託しているというところがどういうことなのかなと考えています。というのは、来年度も学童保育がとても入

りづらい、定員いっぱいだという声が聞こえてきています。学童保育のほうとか一時保育だとか、そういうところにお金を使ってほしいなという声がありまして、ファミリーサポートも1時間当たり今800円ぐらいでしたっけ、というのを学童代わりに使ってしまうと1日2,000円とかかかって、例えば母子家庭とかはなかなかそれに手が出ないと。じゃ、その学童に預けられないための代案としてこれを使うことができないので、少し事業のことを教えてください。

あと、119ページのところで、これはちょっと予算とは関係ないんですけども、母子通園施設運営費、ひまわり園のことですが、昨今母子というところの表現があまりふさわしくないのではないかという声が上がっています。実際にお父さんと子どもが来てもいいだろうというふうなところもありますので、これに関して名称の変更を今後検討していただきたいと思います。

あと、先ほど飯田議員がありました子ども会の件なんですけど、子ども会ではなく老人クラブのほうに話をさせてください。99ページです。

99ページ、老人クラブの補助金は653万円出ています、先ほど工夫して活動してくださいと子ども会におっしゃっていましたが、子ども会には35万円、対して老人クラブには653万円、20倍の差があるところを、もう少し子どもたち、母親世代にも分かるような理由を示していただきたいです。

よろしくをお願いします。

○保険医療課長 後藤雅幸君

まず初めに、予算書の105ページのところの子ども医療費のところでご質問いただきましたので、その部分についてお答えをさせていただきたいと思います。

まず、子ども医療費でございますが、子ども医療費を受けるにあたりまして子ども医療費受給者証というものをお持ちのお子様に対して子ども医療費を助成させていただいているところでございますが、子ども医療費の受給者数というものは、やはり18歳以下の年齢の少子化ということを反映しまして年々受給者数自体は減少しております。

その中で今年度この3月議会においても補正をさせていただきましたとおり、医療費が大きく伸びております。これは、多田議員が言われるように免疫力の低下、もしくは最近の疾病等の流行等を反映したものだということで、免疫力が大きく今後の医療費の増加に影響してくるものというふうに考えておりますけれども、ただ、保険医療課としましては、そういったお子様の健康保健事業といいますか、そちらのほうの観点から大きな何か取り組みをしているということはありませんので、こちらの保険医療課のほうから何かアプローチをしていくというのは、ちょっとなかなか考えておりません。

ただ、そういった観点から医療費の抑制につなげられるようなことも何か考えていくことができるといふふうには考えております。

以上でございます。

○子ども課長 飯田陽亮君

多田議員からご質問ありました、何点かありますけれども、まず、1点目のファミリーサポートセンター事業、こちらの概要ですけれども、こちらは子育ての援助をしてほしい人、それからその援助ができる人を会員登録して、マッチングを行う事業であります。こちらの事業は、令和4年度からNPO法人さんのほうに委託して、この委託料として予算としては計上しているものであります。

また、子育て支援センター、それから児童館についてのご質問ありましたけれども、もともと児童館は小学校区に1つずつあった施設でありまして、そこにさらなる子育て支援ということで支援センターを2カ所、蟹江児童館内と蟹江保育所内に設置しておりました。さらに、多世代交流施設泉人（せんと）ができた際に、蟹江西子育て支援センターとして新たに平成31年度に設置しているものであります。

こちら両方とも子育てをする親の方、それから子どもさんが利用できる施設ではあるんですけども、児童館については、例えば子どもさんが帰ってから1人でも利用できる遊びの場、活動の場であります。子育て支援センターは、どちらかということ子育ての支援ですので親御さんの目線で交流をできるものではないかなと私の捉え方としては思っております。

さらに、母子通園施設ひまわり園の呼称についてなんですけれども、こちらはご意見いただきました、例えばお母さんだけのものではないということなんですけれども、例えば親子通園施設であるとか、そういった名称の変更については今後検討していきたいと思っております。

以上でございます。

○介護支援課長 松井智恵子君

多田議員からご質問ありました老人クラブの補助金について、ちょっと私のほうから予算の内訳についてご説明させていただきたいと思えます。

老人クラブの補助金につきましては、人数ではなくて単位クラブごとに一律の補助金を出させていただいております、1クラブ当たり年間8万5,000円掛ける48クラブに出させていただいております、それとは別に連合会という組織がございますので、そちらに対して年間5万円支出させていただいております。そのほかに、今、泉人（せんと）という入浴施設が蟹江町にございますけれども、その前の老人福祉センターですね、福祉センターの時代に老人クラブの方が入浴をされていまして、そちら泉人（せんと）になったときに有料化になりましたので、そちらの入浴の助成券ということでお1人当たり年間1,000円分配付させていただいております、こちらも老人クラブの入会者数も年々減っているところではございますので、入会促進のために行っている事業でございます。

以上でございます。

○1番 多田陽子君

まず、子どもの医療費に関してなんですけれども、例えば今学校ではマスクをしない生活をしていまして、黙食というのもなくなっているようです。ただ、過去を振り返ったとき、コロナのとき、それが本当に子どもにとっては強制的に行われていました。コロナが特に身近にないのにどうしてマスクをしているんだ、黙食をしているんだ、けれども今本当に隣の席の子がインフルエンザにかかっているかもしれない、クラスがすごくたくさん休みがいる、なのにマスクはしないというのは、どういうふうに子どもに説明したらいいのかということに私はとても悩んでいます。なぜこういうことがあったのか、じゃどうして今マスクはなくていいのか、そういったところをきちんと説明できるようになりたいと思うので、そのあたりも併せて教育のほうにはご検討いただければと思います。

ファミサポについてなんですけれども、他の市町村見ましたら、例えばシングルの方だとか生活保護を受給されている方には2分の1の補助があるなどで使いやすいようにされています。けれども、やはり1時間700円、800円かかるというのはとても使いにくい状況でありますので、そのあたりもご検討ください。

あと、母子通園に関しての名称、ぜひよろしくお願いいたします。

あと、子ども会と老人クラブなんですけど、1団体当たり8万5,000円ということですけども、私の所属しています海門北で言いますと、子どもの人数のことを考えたらうちの団体には3,000円ほどしかいただけていません。やはり世代間であまりに差があり過ぎると、世代間の分断を招いてしまって、おじいちゃん、おばあちゃんはいいいよねという気持ちが地域をちょっとぎすぎすさせてしまうんじゃないかなというところがありますので、そのあたりを少し今後は考えていただければと思います。よろしくお願ひします。

○子ども課長 飯田陽亮君

ファミリーサポートセンターの減免につきましては、他市町村の例を参考に今後させていただきます。

以上でございます。

○民生部長 不破生美君

民生費に対していろいろとご要望いただきまして、ありがとうございます。いろいろご要望いただいたものについて検討させていただきながら、変えられるものについては変える、何か根拠があるものについては今後も検討していくという形でやらせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○議長 水野智見君

他に質疑ありませんか。

(なしの声あり)

他に質疑がないようですので、3款民生費を終わります。

続いて、4款衛生費、124ページから149ページまでの質疑を受けます。

○6番 板倉浩幸君

まず、131ページの帯状ほう疹ワクチン、代表質問でもいろいろな方が聞きましたけれども、今回の帯状ほう疹ワクチン、50歳以上の方を1回のみ5,000円ということですが、答弁でもあった人口の3%だったよね、たしか、その積算根拠をちょっと詳しくお願いしたいと思います。

○健康推進課長 小澤有加君

ただいま帯状ほう疹ワクチンの予算、接種率3%の見込みの部分でのご質問をいただきました。こちらのほう、事業開始にあたりまして薬品の卸だとか近隣の先行している自治体の実績をいろいろと情報収集をさせていただいております。その中で平均的に3%台でスタートしているところが現状で見られましたので、とりあえずのところでは予算の根拠として3%の接種率というところで予算を計上させていただきました。

以上でございます。

○6番 板倉浩幸君

帯状ほう疹ワクチン、もう既に行っている自治体の参考で、町長の答弁でもあって、最初にはまずスタートして、利用状況確認しながら足りなければ補正も出していくということ。

あと、実際1回当たり1人5,000円と、言っていたように生ワクチンと不活化ワクチンで金額がやっぱり1万円以下のものと2万円ぐらいかかっちゃうやつに1人1回のみ5,000円ということで、この辺も先進で回数増やしたり上限増やしたりして頑張っている自治体もあるので、利用状況を確認しながら、もうちょっと手厚い補助をしていただけるといいかなと思います。

あともう一点なんですけれども、127ページの下の方に住宅用太陽光電池の設置導入促進補助事業費があります。これ、令和5年度も240万円で変わりありません。今県の補助事業も、これ結構地球温暖化対策で補助も増やしてきています。そんな中で今回の住宅用の太陽光等も含めた温暖化対策で、市町村と協調して補助いたしますことに県もなっています。今回蓄電池の補助事業を県は拡充して、今まで1基当たり10万円の補助が最大40万円まで増額されているんですけれども、限度なんですけれども、この辺で補助を増やすことは検討できなかったのか、お願いいたします。

○民生部次長兼環境課長 石原己樹君

住宅用太陽光発電施設についてのご質問ですが、今現在町のほうで補助対象にしているものが一体的な設備ということで、太陽光パネル、蓄電池、HEMSといった管理システムですね、この一体型のもの、あと単体として蓄電池、HEMS、V2Hとって電気自動車の充放電設備ですね、そちらのほうをそれぞれ単体でも補助しているところでございます。

議員がおっしゃったように今愛知県のほうが拡充、補助内容をいろいろ拡充してきている

状況でございます。当町としましては、今年度ほぼ予算いっぱい申請状況でございます。できればなるべく多くの方に補助をしていただきたいということで、予算としては現状の制度を維持させていただいたというところでございます。

以上です。

○6番 板倉浩幸君

現状、環境課の前にも残り幾つと書いてあるんだけど。

蓄電池が結構かかるんだよね。その補助をもうちょっと進めながら、県の補助も使って予算を本当につけていただいて、地球温暖化対策、本当に毎年これから考えていかないといけない状況で、この太陽光発電だけじゃなくて地球温暖化対策もぜひ蟹江町も率先して何か考えていく方向を持っていかないと、温暖化で今や地球沸騰型と言われている中で、その辺をお願いしたいと思います。

○民生部次長兼環境課長 石原己樹君

当町としましても地球温暖化対策、今後事業計画も含めて総合的に考えていきたいと思しますので、またご協力のほうよろしくお願いいたします。

○7番 三浦知将君

7番 三浦です。

139ページの子育て世代包括支援事業について、この19の扶助費、妊産婦タクシー料金助成費と予算が上げられておりますが、こちらの具体的な内容を教えていただきたいです。

○健康推進課長 小澤有加君

妊産婦タクシーの料金助成費についてお答えをさせていただきます。

この事業ですね、実は今は出産子育て応援金の事業が開始をされた令和4年1月というところなんですけれども、その時点でタクシーのチケットの配付は今廃止をしておりますが、出産後1年、産婦の間は使っていただくことができますので、その方が今発行されたものをお使いいただいているという状況での予算の計上になっております。母子手帳の交付をさせていただいた際に基本料金を助成するという形で1人当たり24枚ですかね、すみません、ちょっと今詳細はあれなんですけど、チケットを配付させていただいております、令和7年度までその交付、最後有効期間がありますので、もうしばらく予算計上はさせていただく予定でおります。

以上でございます。

○7番 三浦知将君

ありがとうございました。ということは、特に新しくこの妊産婦タクシー料金の助成費用を出すというわけではないということですね。はい、ありがとうございました。

○2番 山岸美登利君

2番 山岸です。

135ページの真ん中の蟹江町飼い主のいない猫の避妊去勢手術費、これは拡充されていますか。これまでずっと39万円だったと思うんですけども、詳細教えてください。

○民生部次長兼環境課長 石原己樹君

飼い主のいない猫の避妊去勢手術の補助金でございます。こちらのほう、令和5年度につきましては39万円のところ、今回43万9,000円ということで拡充させていただきました。こちらのほう年々申請数が増えている状況で、今年度につきましてはほぼ予算のほうを使い切ったという状況でしたので、6年度につきましては拡充させていただいたというところでございます。

以上でございます。

○2番 山岸美登利君

具体的に30匹ずつだったと思うんですけども、これ単純に普通に計算して、避妊が33匹で去勢が35匹というふうで申請が可能ということですね。

○民生部次長兼環境課長 石原己樹君

そうですね、今回避妊が33頭、去勢が35頭、予算額としては43万9,000円ということで計上させていただいております。

以上でございます。

○2番 山岸美登利君

もう一つ、ごめんなさい、ちょっと。これまでずっとこの猫の問題で相談とかにぎわっていたんですけども、ちょっと今静かなので、何かトラブルとか課題ってありますか、最後それ聞いて、終わります。

○民生部次長兼環境課長 石原己樹君

課題ということなんですけれども、熱心にボランティアの方ですとかがいわゆる飼い主のいない猫を地域猫として餌づけをして捕獲、去勢等をして放つということなんですけれども、やはりどうしても中には猫の嫌いな方もおみえになりますし、猫がきちっと管理ができてないというんですかね、そういった餌を食い散らすとかふん尿の被害というのは、やはりどうしてもございます。やはりそういったことで、いろいろ地域のご協力とご理解を得ながら進めていくのが、やはり課題かなと感じております。

以上でございます。

○議長 水野智見君

他にありませんか。

(発言する声なし)

他に質疑がないようですので、4款衛生費を終わります。

ここで、民生部次長兼環境課長、住民課長、保険医療課長、健康推進課長、介護支援課長、子ども課長の退席と、上下水道部長、産業建設部次長兼まちづくり推進課長、下水道課長、

土木農政課長、ふるさと振興課長の入場を許可します。

入れ替えのため、暫時休憩とします。

再開は10時50分、お願いします。

(午前10時41分)

○議長 水野智見君

休憩前に引き続き会議を開きます。

(午前10時52分)

○議長 水野智見君

続いて、5款農林水産業費、150ページから157ページまでの質疑を受けます。

○8番 吉田正昭君

8番 吉田です。

157ページの交付金ですね、多面的機能支払交付金、これの説明をお願いします。

○土木農政課長 東方俊樹君

では、議員から質問のありました多面的機能支払交付金についてお話をさせていただきたいと思います。

こちらは、現在、鍋蓋新田地区に関します農地の維持等の水路の整備だとか農道の整備に伴いますものに対しての交付金でございます、こちら多面的というのは、水田は雨の際には貯水になったりとか、あと水生生物、生態系等の部分についても多くの機能を有するところで多面的という言葉が使われておるんですが、そういった農地の維持、水路、道路等の維持についての機能を支えるための交付金ということで、県・国と町でということでお支払いをしている交付金ということになります。

以上でございます。

○8番 吉田正昭君

そうしますと、どう言うんですかね、農地を貯水池代わりというか、大雨が降ったときに水がたまるように、そこで一旦水を受けるような感じで水路等を整備していただくと、それで農地も維持しながら、そういうふうに日常生活、防災の面でも活用するというようなことで多面的の解釈でいいでしょうか。

○土木農政課長 東方俊樹君

農地の利用に関しましては、いろいろ様々な機能はあると思います。そんな中で貯水ということも防災に関することについても一つの機能であると思いますので、そういったものを含めた多面的という言葉となっておりますということになります。

以上でございます。

○8番 吉田正昭君

そうしますと、ほかの地域の農地にもこの交付金を出す、払うということが出来るような

気もするんですが。これ鍋蓋ですよ、地区としては。という考えもできると思うんですよ。特に農振区域の多いところなんか、そういうような機能もできるんじゃないかなということも思うんですが、そのように他地区へ交付金のということは考えられないですかね。

○土木農政課長 東方俊樹君

今、鍋蓋地区でこちらのほうを行っておりますが、そういった地区に関しましては、いろいろその土地、その地元の方とかの要望とかそういったこともあるかと思うんですけれども、そういった意見を聞きながら、必要があればこういった交付金を支払うということについても検討していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長 水野智見君

他に質疑ありませんか。

(発言する声なし)

他に質疑はないようですので、5款農林水産業費を終わります。

続いて、6款商工費、158ページから165ページまでの質疑を受けます。

○7番 三浦知将君

7番 三浦です。

まず、委託料についてお聞きしていきたいと思えます。

まずは、161ページ、商工業振興管理費の12番委託料のふるさと納税アドバイザー業務委託料と記載されておりますが、こちらは誰が誰にどういったことをやるのかを教えてください。

続きまして、165ページの委託料ですね、地域の魅力向上と地域消費の活性化に向けたデジタル技術活用普及事業委託料というの、こちら去年が1,000万円ぐらいですかね、1,200万円の予算から結構こちら2,300万円というふうに費用も上がっておりますね。この上がった経緯というんですかね、教えてください。

○ふるさと振興課長 太田圭介君

ただいま三浦議員からご質問のありました2点につきまして、ご回答のほうをさせていただきます。

まず、1点目、ふるさと納税アドバイザー業務委託料の誰が誰にというところのご質問でございます。

こちらにつきましては、ふるさと納税の返礼品ですね、返礼品をポータルサイトに登録するにあたっては、商品の提案書であったりですか、そういったもろもろの書類を提出し登録する必要があります。事業者にとっては、その書類を書くことが結構おっくうだとおっしゃられる事業者の方も多くみえますので、そこの事務代行をお願いするというようなものでございます。

続きまして、2点目の地域の魅力向上と地域商品の活性化に向けたデジタル技術活用普及事業の事業費の増についてでございます。

こちらにつきましては、国が現在デジタル田園都市国家構想というものを掲げております。こちらにつきましては、地域の課題解決ですとか魅力の向上をデジタル技術を活用することによって推し進めることによって、全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指すものという構想を掲げております。

当町においてもこの国の取り組みの基調に合わせまして、令和5年度今年度ですね、今年度から令和7年度までの3カ年にわたりまして、この交付金を活用するべく事前に3カ年の事業計画を提出し、令和5年4月1日付でこの交付金の交付決定を受けているというところでございます。令和6年度は、その事業計画の2カ年目になるところでございます。

こちらの委託の中身でございますが、計画の初年度であります今年度におきまして、当町の魅力の発展と発信を両輪のように推し進めるために町民ですとか事業者アンケート調査を行いました。そのアンケート調査の結果から、住民が行政に対して不足をしているというところについては、情報の発信力というところを課題として上げられています。一方、事業者にとっては、例えばSNSを活用したくても、その導入の方法であったりだとか操作方法が分からないといった声が多く聞かれます。それを踏まえて、町民も事業者もデジタルの対応力を向上させるような取り組みを令和6年度については取り組んでいきたいというふうに考えております。そのための事業費の増でございます。

以上でございます。

○7番 三浦知将君

ありがとうございました。

まずは、ふるさと納税のアドバイザー業務委託料については事業者に対してということで、はい、理解いたしました。

先ほどのこちらの地域の魅力向上と地域消費の活性化に向けたデジタル技術活用普及事業委託料につきましては、そういうふうに予算を増加させるのは分かったんですが、具体的にどのあたりに特に力を入れていく、予算を使うかということと、あとは、去年令和5年度やられたことをちょっと教えていただきたいです。

○ふるさと振興課長 太田圭介君

三浦議員から2点ご質問いただきました。

まず、今年度やったことでございますが、やはりこの3カ年の事業を進めていくに当たって初年度であります今年度につきましては、町民がこのデジタルの利活用にあたっての利用状況ですとか、併せて魅力向上についても町民に対してアンケート調査を行いました。あとは、事業者に対しましては、事業所を直接訪問しながらインタビュー調査をして、同じようにデジタルの利活用状況ですとか、あとは行政に求めているもの、そういったものを聞き取

り調査をしたところでございます。

そのアンケート調査を踏まえまして来年度につきましては、例えば町民の中には自身が持っているデジタル技術を町内の事業者で活躍したいという思いを持っていらっしゃる方が多くみえます。一方で、事業者につきましても、先ほど申し上げましたとおり、デジタルの利活用には興味はあるんだけど一歩二の足を踏んでいるという事業者もいらっしゃいますので、そういった町民の方、事業者の方をマッチングさせるようなデジタル人材バンクというものを創設するようにちょっと取り組んでいきたいなというふうに考えております。

あとは、もう一点、やはり観光というものはやっぱり切っても切り離せないと思っておりますので、観光を突破口とした消費の活性化というところにも目を向けていきたいなというふうに考えておりますので、町民向けの事業といたしましては、町の歴史や文化、飲食店を巡るような、蟹江町の魅力を再発見できる、そういったデジタルスタンプラリーの実施というところも手がけていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○7番 三浦知将君

令和5年度に関しましては調査を主体にいろいろやられたということで、来年度からはいろいろと実践していくということなんですけれども、ごめんなさい、ちょっと今の答弁だとちょっとどこにこの2,000万円をどういうふうに使っていくかということが見えなかったんですが、やはりこのデジタル人材、マッチングさせるというようなことが、いろいろな何か整備するのにお金がかかるんですかね。

なので、ちょっといろいろとまた最大限に効果を発揮していただきますように取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

以上です。

○8番 吉田正昭君

8番 吉田です。

161ページの下の方なんですけど、補助金として首都圏人材確保支援事業費補助金100万円とありますが、これって毎年計上されているんですが執行されておるようなことはほとんどないですね。この事業名自体がここに載ることによって蟹江町では、地方のところでは農村部、山村部、漁村、いろんな資源がある、観光資源とかいろんな風景とか、いろいろ温泉とかあるようなところへは移住される人がいるというふうに、特にIT関係とか一次産業の農業関係の人が移住するようなことはマスコミ等々で見るとはありますが、蟹江町で実際このような事業を載せておること自体がちょっとおかしいんじゃないかなと私は思うんですよね。それで、やっぱり集中と選択で、これは選択するような事業じゃないような気がするんですが。100万円のことですので、とりあえず載せておこうかなというように単純な思いで載せられたのかなと思うんですが、ここのところ載っていますので、予算としてどんなものかなと、どん

な考えかなと思ひまして、ちょっとお聞きします。

○ふるさと振興課長 太田圭介君

ただいま吉田議員からご質問のありました首都圏人材確保支援事業につきましてお答えをさせていただきますと思います。

こちらにつきましては、国のほうも東京一極集中の是正ですとか、地方の担い手不足に対処することを目的といたしまして、起業、就業、移住を推進し、対象者に移住に係る支援金を支給する制度でございます。

当町におきましては、平成31年度からこの事業に参加をしておるところでございます、先ほど議員おっしゃられますように、これまでの間、当町といたしましては実績は上がっておりません。

じゃ、この事業を予算を措置すること自体がというところではございますが、やはり国が地方に移住をさせると、流れを地方に目を向けるというところのその取り組みに基調を合わせるということもございますので、予算としましては例年どおりの予算額を計上させていただいたところでございます。

以上でございます。

○8番 吉田正昭君

確かにこれは国の事業ということで、また何年か前に町長の施政方針の中にも書かれていたと思うんですが、国がこうだから地方もそれに沿ってというよりも、地方がこういうふうにしたらいよという、蟹江町がこういうふうにしたらいよという事業に集中したほうが良いと思うんですよね。何の意味もないようなものを載せておいてもしょうがないんじゃないかなと思ったものでちょっと聞いてみたんですが。今コロナが終わってから東京のほうにまた人口が移っているような統計も出ているようなものを見たような気がするんですが、ちょっとやっぱり自分の町に合った事業をもっと真剣に考えていただく、これ載せるなら載せておいてもいいんですけれども、そんなようなふうにしたもので、ちょっとお聞きしました。

以上です。

○議長 水野智見君

他に質疑ありませんか。

(発言する声なし)

他にないようですので、6款商工費を終わります。

続いて、7款土木費、166ページから189ページまでの質疑を受けます。

○14番 佐藤 茂君

14番 佐藤 茂です。

181ページのこれ委託料か積立金なのかこれちょっとあれですけども、その中の新市街地整備事業というところがございますけれども、これは近鉄の富吉駅南のまちづくりのこと

を指しているかなと思うんですけども。先般代表質問でも石原議員が少し質問され、町長がそれなりに答えていただいたんですけども、もう少し詳しく説明をしていただければと思います。肥尾部長、よろしくお願いします。

○産業建設部長 肥尾建一郎君

では、佐藤議員からご質問ございました富吉地区の進捗状況などについてちょっとご説明をさせていただきます。

今年の2月に県の都市計画審議会のほうに、あの地区の市街化編入について諮っていただきまして承認をいただきました。それをもちまして、この3月末には市街化編入の県告示がなされます。また、地区内に代替区というものを設けまして、商業系の施設を誘致する予定をしております。その企業を募集した結果、ある程度知名度がある業者からの提案がございまして、発起人委員会の中でもんでいただいて、そこを協力事業者としてパートナーとしてやっていくということで今決定をしましたので、まずは事業の下準備が整ったのかなと思っております。

来年度からはいよいよ事業主体となります組合設立に向けて手続きを行っていきます。その組合が設立されればいよいよ事業に着手をしまいきますので、町としても事業推進に向けて支援をしっかりとやっていきたいと思っておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

○14番 佐藤 茂君

どうもありがとうございます。これからが本当に大変なことになるかと思うんですけども、当然我々地元の間人でありますのでお手伝いをさせていただきますが、ちょっとこれから頑張ってやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○2番 山岸美登利君

2番 山岸です。

同じ181ページなんですけど、住宅耐震の関係をちょっとお聞きしたいと思っております。民間木造住宅耐震診断・改修費補助事業415万円、ちょっと細かくお聞きします。

ごめんなさい、その前に、委託料で住宅診断業務がありますが、この無料診断の件数をお聞きしたいと思っております。

あと、民間木造住宅耐震改修費補助金、補助金とか交付金がずっとありますけれども、段階的耐震改修費補助金、シェルターの整備費補助金、ちょっと飛びまして空き家除去費補助金、これらの利用実態をお聞かせください。

○産業建設部次長兼まちづくり推進課長 福谷光芳君

それでは、ただいまの山岸議員のご質問にお答えをさせていただきます。

まず、委託料の耐震診断の委託料というところなんですけど、こちらは平成15年度から事業を実施しております、今までトータルでいきますと680件の方の診断をさせていただいて

おります。

補助金のほうになります。耐震改修費補助金、こちらは平成16年度から事業を実施しております。今までトータルで48件ですね。段階的補助ということで、こちらは2段階で耐震判定の1.0を目標とする補助なんです。第1段階、第2段階とありますが、第1段階は1件、第2段階につきましては、残念ながらご利用実績はございません。続きまして、耐震シェルターにつきましては、こちらは平成26年度からですね、すみません、先ほどの段階的も平成26年度から事業は実施させていただいておりますが、シェルターにつきましては、今までで2件ですね。あと、ブロック塀の撤去、こちらは平成30年度から事業を開始しております。今までで21件。あと、除去につきましては、これ令和4年度から事業を開始しております。こちらは2年間で3件ですね。あと、空き家のほうの補助金、除却の補助につきましても、こちら令和4年度から事業を進めさせていただいておりますが、2年間で5件という利用状況でございます。

以上でございます。

○2番 山岸美登利君

ありがとうございます。今ちょっと頻繁している災害もありまして、町民の関心もちょっと高まっているところでもありますのでちょっとお聞きしました。

ちょっと細かくお聞きしたいんですけども、この耐震診断の昨年とその前とか件数は分かかりますか。さっき合計で、2年ぐらい、過去2年。

それと、段階的耐震、これどういう、段階的というのはどういう耐震なのかということと、あと、空き家のこれもちょっと昨年とかその前、過去2、3年の件数をお聞きしたいんですが。

○産業建設部次長兼まちづくり推進課長 福谷光芳君

それでは、ただいまのご質問にお答えをさせていただきます。

まず、耐震診断につきましては、今年度、事業ほぼ終了しておりますが16件ございました。令和4年度は20件、もう一年さかのぼって令和3年度については8件というのが実際の数値になります。

あと、段階的改修ということなんです。こちらにつきましては、耐震診断を実施していただいた結果、判定値が0.4を下回る場合というのがまず条件としてございますが、こちら判定値を0.7から1.0未満にするという場合が第1段階の改修という形になります。第1段階終了後、判定値を1.0以上とする場合については第2段階というような形で、通常の耐震改修ですと1回で1.0まで持っていくという話なんです。段階的については2段階で1.0以上にさせていただくというものになります。

あと、空き家についてなんです。空き家の除却につきましては、今年度は実績として3件、昨年度は2件ということで、5件というような形になっております。

以上でございます。

○2番 山岸美登利君

ありがとうございました。空き家は1件20万円掛ける3件分、はい。

シェルターの話にもちよつとなつたんですけれども、たまたまちよつとNHKでも利用者さんのことが映像放映されまして、これらの周知ですね、周知は「まちから」（町広報）のみ、これからもうちよつと周知も拡充していただきたいんですけれども、その辺をお願いします。

○産業建設部次長兼まちづくり推進課長 福谷光芳君

それでは、シェルターの周知ということでお答えをさせていただきます。

先ほど実績として2件ということでお話をさせていただいたんですが、実際利用いただいているのは平成27年、28年ということで、ここ数年はご利用がいただけてないような状況があります。

そのような中で、2、3年前ぐらいからは、シェルターのほうをできればやっていただける方あるといいなということで補助金額自体は30万円というものではあるんですけれども、実際整備していただく費用が何百万円とする事業ではないものですから、かなり持ち出し額が少なくて補助でかなりの部分が賅えるかなという事業でありますので、やはり改修するよりは安価で生命が守られるというものでありますので周知を考えている中で、実際例年耐震診断をやっていた方にあたっては、改修という補助もありますのでどうですかというのを直接ダイレクトメールもお送りはさせていただいております。そのような中で、なかなか利用いただけてないというところがありますので、できましたら4月以降の広報紙でも皆さんに理解していただける、周知できるような形で掲載をさせていただけたらなというふうに考えております。

以上でございます。

○5番 飯田雅広君

5番 飯田です。

私も同じ181ページの空き家対策事業なんですけれども、63万9,000円なんですけれども、これ以外に空き家対策の予算ってほかにどこかあるんでしょうか。

○産業建設部次長兼まちづくり推進課長 福谷光芳君

空き家対策の予算ということで、ご質問にお答えをさせていただきます。

まず、この空き家対策につきましては、平成31年3月に空き家対策計画というものを策定させていただいております、それに基づき事業を進めておるところでございます。実際に予算としては、先ほど山岸議員のほうからもご質問ありましたが、空き家の除却をするための費用として60万円のほうを計上させていただいておりますが、そのほかでも、予算的なものとしては特には計上はさせていただいておりませんが、やはり空き家ですと近隣の方から

隣の空き家がということでお困りのご相談をいただくことが多々あります。そういった空き家物件につきましては、所有者の方の調査をした上で改修なり適正な管理をお願いするような文書も送らせていただいております。

そのほかでも、平成31年2月に公益財団法人の宅建業協会さんですね、愛知県宅地建物取引業協会様と協定を結ばさせていただいて、空き家ですとか空き地の売買だとか貸し出し方法なんかをホームページで掲載をして流通をするような形で進めております。

これらの事業については、特に予算が伴うものではございません。紹介ということでさせていただきます。

以上でございます。

○5番 飯田雅広君

空き家は年々増えていっていると思いますので、もう少し力を。この予算額だけ見ると何かあんまり全然力が入ってないなというような印象を受けますので、もう少ししっかりとやっていただきたいなというふうに思います。

来月から相続登記の義務化も始まります。このあたりが始まると、またやはり多少は空き家に対して何かしら変化が生まれるかなというふうに思うんですけども、そのあたりは、この相続登記の義務化についてどのような影響があるかなというのは、何かお考えでしょうか。

○産業建設部次長兼まちづくり推進課長 福谷光芳君

それでは、ただいまのご質問にお答えをさせていただきます。

相続登記等の義務化ということになりますと、正直今まで我々が対応している中で相続人が分からない、亡くなっておいて相続人が分からないだとか、そういったことで相続人を探すという手間がかなりかかっておった部分がございますが、義務化ということで現存される方が所有者というような形になってくれば、その部分の時間が短縮されるのかなという効果があると考えております。

以上でございます。

○5番 飯田雅広君

そうですね、やはり所有者さんがしやすくなると思いますので、そういった意味でもこの空き家対策進むかなと思います。そういった意味では、もう少しまた予算つけていただいて、しっかり対策していただければなというふうに思います。

以上です。

○1番 多田陽子君

1番 多田陽子です。

181ページのブロック塀等撤去費補助金30万円についてお伺いします。

年末のホームページで、この募集が終了したということが出ておりました、今年度。今年

度も同じく30万円であったのですが、同じ金額である理由を教えてください。

○産業建設部次長兼まちづくり推進課長 福谷光芳君

それでは、ただいまの多田議員のご質問にお答えをさせていただきます。

ブロック塀の補助金につきましては、国からも補助をいただいている中で要綱を定めながら補助のほうをさせていただいているんですが、実際に工事を1月末までに終わって完了届というものを出していただくような形でお願いをしております。実際に広報6月号で今年度ですと募集をかけさせていただいておりますが、1月31日までに完了していただくという必要があるものですから、申請の期限も12月15日ということで今年度も締めさせていただきます。国庫補助金をいただく中でやはり期限があるということで、そういった12月が申し込みの期限ですよということになっておりますので、それを過ぎてしまうと国庫補助金の手続き等に支障が出てくるものですから、早い段階で締め切りをさせていただいております。

予算額としましては30万円ということで、このブロック塀の撤去に係る補助金につきましては、ブロック塀は撤去していただく距離、長さですね、これに応じて金額が変わってきますが、上限が1件当たり10万円ということで、昨年も今年度も3件分を見越して30万円ということで予算のほうを計上させていただいている状況でございます。

以上でございます。

○1番 多田陽子君

すみません、てっきり12月にもういっぱいになったのかなと勘違いしてしまいました、勉強不足で申し訳ありません。

ただ、ブロック塀ってたくさんありますし、通学路、狭いところのそばに高いブロック塀が立っている古いところもたくさんありますので、もっと周知して、たくさん古い危ないブロック塀を撤去していただけるように持って行っていただければと思います。よろしくをお願いします。

○13番 安藤洋一君

13番 安藤洋一です。

181ページの一番下のほうですね、街路樹木等維持管理委託料ですけれども、例えですけれども温泉通りなんかを見てももうかなりの植樹が傷んでおる、腐っておる状態ですけれども、この辺は具体的にどのあたりをやる、どういうふうにするかというのを教えてください。というのは、373万円ですかね、これだと植え替えとかはちょっと難しいのかなという気がするんですね。とりあえず今見てみたところ、やっぱり腐った枝を切り落としておるところで終わっておるんですけれども、そういったことをこれからもやっていくのか、順次植え替えも手をつけていくのか。やっぱり計画的に植え替えていかないと、これどんどんどんどん枯れた木ばかりが立っていくと、これ後大変なことになっていくなという気がしますので教

えてください。

それから、187ページ、源氏泉緑地護岸改修工事、これ去年、防災建設常任委員会に同行して視察させていただきました。終わったところの東側も、やっぱりもう矢板が剥がれているのが確認できましたので、やっぱりこれは着々と整備を進めていかないかんのだなというのを感じましたので、よろしくをお願いします。

気になったので対岸もこの間見てきたんですけども、何と言うんですかね、護岸のこのコンクリートは矢板の形できちっとなっておるんですけども、矢板そのものがあるのか、今工事やっておるエリアみたいに剥がれているのか、ちょっとよく分からなかったもので、その対岸のほうも調査なんかはされているのかどうかを教えてください。

そして、今年の決算のときにも産業建設部長からも答弁いただいた、トイレを再度設置するというお言葉いただいたんですけども、それが令和6年度の中の予算に含まれているのか、ちょっとまだ先だよというのか、その辺も教えていただきたいなと思います。

以上です。

○産業建設部次長兼まちづくり推進課長 福谷光芳君

それでは、ただいまのご質問にお答えをさせていただきます。

まず、181ページの街路樹木ということのお話になりますが、こちらについては、かなり桜の木も古くなってきているのも散見される状況なものですから、咲いているものは別として、咲かなくなったようなものですか危ないものを順次伐採をして植え替えということもしていっておるところですので、来年度につきましても引き続き状況を見ながら対応させていただければと思っております。

あと、2点目の泉緑地の対岸の護岸ということのご質問なんですけど、こちらにつきまして今回泉緑地側の護岸の改修をするにあたって事前に1周調査は、目視程度ではあるんですがさせていただいたんですけど、その当時については、そういった箇所というのはちょっと把握しておりませんでしたので今事業として計画はしておりませんが、また改めてちょっと現地を確認させていただいて、必要に応じて対応していけたらなと思っております。

あと、3点目ですね、トイレにつきましてですが、残念ながらちょっとこの6年度については予算のほうは計上させていただいてないところです。まずは護岸の改修を優先的に進めさせていただきまして、これも国庫補助事業としてやらせていただいているものですから国庫補助のつき具合等々検討しながら、後年度に設置するというのも検討していけたらなと思っております。

以上でございます。

○13番 安藤洋一君

ありがとうございます。

まず、街路樹のほうですね、かなり本当に腐食というのか進んでいるので、ぜひ、もう予

算的にあるのであれば植え替えをやっていかんともう間に合わんというのが、あっちもこっちも枯れ木ばかりという状況にもなりかねませんので、その辺計画的に専門家の声を聞きながら、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、対岸は差し当たっては大丈夫なのかな、調査もよろしくお願ひします。やっぱり5年度やったところみたいに崩れてしまつてからでは大変な事故も想定されますので、よろしくお願ひいたします。

それから、トイレについては、やっぱり去年お聞きした後からでも、やっぱり一般の皆さんから聞かれるんですね、トイレないのというのはよく聞かれますので、なるべく早い時期に復活をお願ひしたいと思ひます。

それから、もう一つ、この187ページの上のほうの日光川ウォーターパークの借地、これあの広大なエリア、あれ全部借地なんですかね、それか、どこか一部でも蟹江町の土地があるとか、その辺ちょっと教えてください。

○産業建設部次長兼まちづくり推進課長 福谷光芳君

日光川ウォーターパークの土地についてということでお答えをさせていただきます。

実際整備する際には多くの土地のほうは用地を購入させていただいて現在町有地となつておるんですが、一部については借地ということで、供用開始時点から引き続き借地という形でお借りしながら、グラウンドのほうを開放しているというような状況でございます。

○13番 安藤洋一君

ありがとうございます。それは、あの広大な敷地の全体の何割ぐらいが借地だよとか、そういうのはわかりますか、大体でいいんですけれども。

○産業建設部次長兼まちづくり推進課長 福谷光芳君

それでは、ただいまのご質問にお答えをさせていただきます。

今、借地としてお借りしておるのが3,500平米ほどになります。公園自体はたしか5万平米ぐらいあると思ひますので、すみません、ちょっと確實は数字ではないんですが、それからしますと1割弱のところかなというふうに考えております。

以上でございます。

○議長 水野智見君

他に質疑はありませんか。

(発言する声なし)

他に質疑がないようですので、7款土木費を終わります。

ここで、産業建設部部長、上下水道部長、産業建設部次長兼まちづくり推進課長、下水道課長、土木農政課長、ふるさと振興課長の退席と、消防長、教育部次長兼教育課長、消防次長兼消防署長、給食センター所長、生涯学習課長、消防本部総務課長、子ども課長の入場を許可します。総務課長は席を移動してください。

入れ替えのため、暫時休憩します。

(午前11時34分)

○議長 水野智見君

休憩前に引き続き会議を開きます。

(午前11時42分)

○議長 水野智見君

ちょっと緊急に開きたいことありましたので、議会運営委員会をこの後開きたいと思えます。

理事者の皆さんには、この後は1時からの再開でお願いしたいと思えますので、ただちに議会運営委員会を開きたいと思えますので、議会運営委員の方は協議会室のほうにお願いします。

暫時休憩いたします。お願いします。

(午前11時42分)

○議長 水野智見君

休憩前に引き続き会議を開きます。

(午後1時00分)

○議長 水野智見君

本日午前中に緊急で開催されました議会運営委員会の協議結果の報告を求めます。

議会運営委員長、安藤洋一君、ご登壇ください。

(13番議員登壇)

○議会運営委員長 安藤洋一君

議会運営委員長の安藤洋一でございます。

午前中、昼休憩前に行われました緊急の議会運営委員会、第3回議会運営委員会についてご報告を申し上げます。

日時は、本日3月15日金曜日。

1、令和6年第2回6月定例会の日程の変更についてご報告いたします。

本日冒頭で第2回議会運営委員会の協議結果として報告いたしました6月定例会の会期日程について内容を変更する必要がある、急きよ第3回議会運営委員会を開催いたしました。

協議した結果、お手元に配付いたしました変更後の会期予定表のとおり改めて決定いたしました。

変更箇所のみ申し上げます。変更箇所としては、一般質問の日を18、19日から20、21日へ、閉会日を21日から25日としております。

つきましては、本日配付した会期予定表は、変更後の会期予定表に差し替えをお願いいたします。どうぞ、お間違えのないようによくご対応をお願いいたします。

2のその他については、特にございません。

報告は以上です。

(13番議員降壇)

○議長 水野智見君

どうもありがとうございました。

ここで、理事者から4款の中で答弁の訂正をしたい旨の申し出がありましたので、許可します。

○民生部長 不破生美君

それでは、議長のお許しをいただきましたので、答弁内容の訂正をさせていただきたいと思えます。

三浦議員からご質問いただきました妊産婦タクシー助成費についての答弁に誤りがございましたので、この場をお借りしましてお詫びし、訂正させていただきます。

妊産婦タクシーの助成費について基本料金を助成するチケットである旨の答弁を差し上げましたが、正しくは、妊娠届け出時に200円チケットが50枚ついた、計1万円分のチケットをお渡ししております。ですので、基本料金に限らず、1万円まででしたらご自由にご利用いただけるチケットとなっておりますので、この場をお借りしまして訂正させていただきます。

以上です。

○議長 水野智見君

続きまして、8款消防費に移ります。

190ページから201ページまでの質疑を受けます。

○6番 板倉浩幸君

6番 板倉です。

予算書の199ページの消防団のことについて、消防団の活性化事業ということで10万円ついていて、関係資料でも、昨年コロナの関係でなくて、今回また新たに10万円ということですが、この10万円で、今消防団がなかなか集まらないという現状を踏まえて、まず、消防団の今の人数に対して団員が、定員が何名で何人消防団として活動しているのかを、まずお聞きをいたします。

○消防本部総務課長 三谷克利君

ただいまの板倉議員の質問にお答えさせていただきます。

消防団の定数と現状活動している人数は何名かといったご質問でございますけれども、消防団の現状の定員は197名で活動している人員も197名で過不足はございません。

以上でございます。

○6番 板倉浩幸君

定員どおり197名ということで、実際どこまで本当に活動しているのかというのが、観閲式、出初式見ても人数がそこまでいないように見えるし、参加している人がね。

今現状、県でも消防団の加入促進で市町村が新たに啓発活動を行うことについて補助も出していますよね。今回この10万円で何をするのか。ここでも書いてあって、PR活動、町民まつりで消防団活動のPRを実施するとか書いてあるんですけども、現状この予算を使って何を考えているのかお願いいたします。

○消防本部総務課長 三谷克利君

ただいまの質問にお答えさせていただきます。

板倉議員が先ほど書類も見られて、町民まつり等々でPRをして、活動する啓発品を購入して加入のPRをしていくというのが現状でございます。あと、それから町民まつりのブースで女性消防団員、こちらのほうで救急蘇生法、そちらのほうのブースも開設しまして、そちらのほうでもPR活動をしているといったのが現状でございます。

以上でございます。

○6番 板倉浩幸君

多分なかなか集まらないので、実際の話は、多分すごい苦勞していると思います。

県としても、ここに県の今年度予算もあるんですけども、消防団の加入促進の取り組みを推進ということで充実強化を図りますとあります。この中で企業等と連携した加入促進というのも考えていて、あと、消防団加入促進事業費補助金というものもあります。これらももうちょっと活用してPR活動、何かもうちょっと踏み込んでできないか、やっぱり考えるべき事態になってきていると思います。これね、1市町村当たり補助額上限100万円、補助率2分の1なんですけれども、こういうことも活用してもうちょっと考えていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○消防長 高塚克己君

それでは、板倉議員のご質問にお答えいたします。

消防団の加入促進ということに関しましては、県の事業とタイアップしまして消防団応援の店、飲食店等々で消防団員証を見せるとサービスが受けられるような、そんなことも蟹江町でやっておりますので、そういったことも含めまして条例定数割れがないように、町内会長さん等々とも連携しまして団員の加入促進を図っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長 水野智見君

他に質疑ありませんか。

(発言する声なし)

他に質疑がないようですので、8款消防費を終わります。

続いて、9款教育費、202ページから259ページまでの質疑を受けます。

○5番 飯田雅広君

5番 飯田です。

2点あります。

まず、215ページの小学校備品整備事業、備品購入費ですけれども、予算関係資料の42ページを見ますと、下校時にもネッククーラー等が利用できる小型冷凍庫を配備するということが52万8,000円需用費が上がっているんですが、本当に夏は暑いので、ネッククーラーして登下校するというのは非常に熱中症対策になるかなと思って大変有効な事業だなと思うんですが、冷凍庫買って冷やすということなので保冷剤が入っているやつだろうなと思うんですが、何か想像がつかないというか、どういう冷凍庫を買ってどういうふうにするんだろうかと、朝登校して汗がついているようなネッククーラーを、多少拭いたり何かしたとしても、例えば違う方の物とくっついたりしてしまうとやっぱり衛生的にどうなんだろうというような心配もありますので、そのあたりどういうふう運用されるのか教えていただきたい。

251ページの賄材料費のところですかね、予算関係資料の38ページですけれども、事業目的としては、学校給食は児童生徒の心身の健全な発育に資する目的で実施するものであるということで、栄養バランスの取れた食事を提供することにより、児童生徒の健康増進、体力の向上を図るものとするということで、その事業目的のためにということで、内容として献立に地場産食材の使用や郷土料理を活用しながら食による文化交流も行い食育事業を推進するというふうにあるので、代表質問のときにもちょっと給食の食べ残しについてお聞きをしたんですが、この事業目的もそのとおりでいいと思いますし、内容もこれで全然いいと思うんですが、とはいえ、小中学生に例えば郷土料理を出してもどうなんでしょうか、進むのでしょうか。正直、私どもの頃、郷土料理の1週間あったんですが、本当に嫌でした。本当においしくもないし、正直なかなか手が進まなかったのも、食べ残しで問題もある中で、まあ郷土料理を出していただくのは全然かまわないんですが、もう少し何かうまいような感じでやっていただきたいなと思うんですが、このあたりどういふふうに行われているのかお聞かせください。

○教育部次長兼教育課長 館林久美君

それでは、まず私のほうから熱中症対策のところでお答えをさせていただきたいと思えます。

まず、ご質問いただきました、どういったものを想定しているのかということなんですけれども、そんなに大きなものは想定しておりませんで、本当に家庭用の縦型の冷凍庫を想定しております。というのは、まず試験運用という形になりますので、私どものほうでネッククーラーを配付するという事業ではないので、本当にご家庭の判断でその子に必要なであれば持たせていただくという形のもので、ちょっと個数の把握とかもまた全然出ており

ませんので、とりあえず家庭用の4段の引き出しつきのをちょっと今イメージしているんですけども、そんな物を置かせていただきたいなと思っております。

ご心配いただきました衛生面なんですけれども、やはり汗のついたネッククーラーをそのまま保管するというは少し控えたいなというのは、ちょっと想像しております。学校現場がどこまで子どもたちに寄り添えるかということもありますので、まずネッククーラーというのは、基本的に私が把握している中では、水に濡らしてそれを冷凍するというイメージですので、登校したら一度水洗いをして、それを冷凍庫に入れてというのをちょっとイメージしております。どんなアイテムを子どもが、もしかしたら背当てパットを持ってくるといふこともあるだろうと思っておりますので、ちょっと状況を見ながらやらせていただきたいなと思っております。

以上でございます。

○給食センター所長 浅井 修君

ただいま飯田議員から食に関するご質問をいただきました。

こちら学校給食では、食育の観点から6つの視点を捉えて教育、お伝えを児童生徒にしております。食事の重要性だったり、感謝の心ということも併せております。その中で食文化という視点で捉えますと、毎月19日の食育の日とか、6月の食育月間等といった期間がございます。こういう機会を捉えて、献立に地元食材の積極的な活用や郷土料理を提供しておるところでございます。

食文化といたしましては、各地域の産物や季節行事にちなんだ食事があることを知ること、食に関する地域の歴史、風土に関わりがあることを理解して、尊重する心も教えておるところでございます。目に見える食べ残しという観点だけではなくて、そういった食全体として教科と関連させて学校現場と連携して食育推進に努めておるところでございますので、郷土料理がおいしいかどうかあれなんですけれども、積極的に地元食材も使いながら郷土料理のPRもしていきたいと考えております。

以上でございます。

○5番 飯田雅広君

ネッククーラーに関しては、まだ始まってないということですので、なるべく衛生面に気をつけてやっていただきたいなと思うのと、あと、私、夏とかネッククーラー、電動のファンつきのものをよく使っているんですけども、その前は手持ちの扇風機を持っていたんですけども、そのあたり、電動のものというのはどんな感じでお考えなのか教えていただきたい。

あと、給食に関しては、確かにいろいろ兼ね合いながらやっていかなければいけないので大変難しいことかなというふうに思いますので、またしっかりと食育を進めていただければなと思うんですけども。

一応今回も予算のほうでも40円増額して、それは全部公費でというようなお話もありましたので、私も子どもが小さい頃に小学校の給食の体験みたいので一応給食を食べさせていただいたことがあるんですけども、やはり最近またしばらく全然給食を食べないのも、一度もし可能でしたら、負担分はお支払いするので、議員も何か一応給食を食べられるような、体験できるような場をつくっていただけたらなど、希望者だけでいいかなと思うんですけども、一度お考えいただけたらなというふうに思います。

○教育部次長兼教育課長 舘林久美君

それでは、電動ファンのところについてお答えさせていただきます。

電動ファンも多分様々ないろいろありまして、一般的なのが本当に手で持って顔に向けてという、そこで涼を取るというものが何となく一般的なものを想像するんですけども、そうしますと、子どもの安全な登下校を考えますと、やはり手がふさがってしまうというちょっと危険度もあるのかなと思います。そしてまた、電動ファンにつきましては、ネッククーラーよりも少し価格帯が高いのかなと。じゃ、それをもし学校の中で破損してしまったとき、そんなときの責任のところ、所在というところもありますので、先ほども申したんですけども、教職員が負担にならないようなところで私どもは考えておりますので、そこは学校現場の職員とどこまでできるというのをちょっと相談させていただきながら検討してまいりたいと思っております。

もう一点目のお給食の件なんですけれども、実際試食していただくことは全然可能だと思いますので、そこはまた事務局さんを通して調整していただければなと思います。

以上でございます。

○1番 多田陽子君

まず、同じく給食の話なんですけれども、249ページですね。最初、この詳細を見たときに、食器の入れ替えにこんなにお金がかかるんだなというところをととても不思議に思ったといますか、それで質問したんですけども、やはり1枚当たり1,200円ぐらいかかるのは、そういうもんなんだというご回答をいただきました。それで、今食育の話をされたんですが、学校給食ではクリーム色のかに丸くんのついた食器を全部使っていらっしゃるんですけども、家庭やお店などでは、やはり食育というものを考えたら器からしっかりと考えて、この食材にはこの器が合うとか、色合いとか、食事って目で見て楽しむものでもあると思いますので、今後入れ替えをされる際は、同じ食器をいっぱい並べるだけではなく、そういったところも併せて考えていただければなと思います。

あと、改めて40円の増額で、子どもたちにその話をしたら、ちょっと豪華になるのかなというのをとても喜んでおりますので、今後ともよろしく願いいたします。

続きまして、205ページのところなんですけど、中日新聞の話で申し訳ないんですけども、新聞の記事にはプログラミングの授業で2,290万円を計上しているというふうな表記の仕方

がしてありまして、この予算書から具体的にそれをどのように読み取ったらいかがが分からなかったもので、解説をお願いしたいと思います。

あと、もう一点プールについても問い合わせさせてください。プールが具体的にどのような形で実施されるのかということを知りたいです。お願いします。

○給食センター所長 浅井 修君

議員のほうからは、食器更新につきましてご質問いただきました。249ページの予算書がありますが、食器更新という文言は明記してございません。消耗品費の中でこちらのほう調達を予定をしておるところでございます。

ご提案いただきました、食事について味もそうなんです、見た目とか盛りつけ方、いろいろ等で味も変わってくるかと思えます。ただし、食材、メニュー、献立によって食器を使い分けることが、現実センター方式だと大変難しいところがございますので、衛生面に配慮して食器の更新をしていきたいと思えます。

また、40円増額で給食献立が充実するかというような内容のところがございますが、精いっぱい努力しておいしい給食を提供したいと考えております。

以上でございます。

○教育部次長兼教育課長 舘林久美君

それでは、私のほうからはプログラミングについてとプールについて、この2点のところをお話しさせていただきます。

プログラミングにつきましては、今までのパソコン教室であったものをICTの総合教室という形で改めてまいります。ですので、今タブレット端末が1人1台に配置されましたので、今までのパソコン教室にあるデスクトップ型のパソコンが40台どこの学校もあるんですけども、それが不要となってまいります。その入れ替えに合わせて、ではその教室をどのように活用していこうかというところで、ではタブレット端末を使いプログラミングができるような環境を整えましょうというところで、小学校につきましては小型ロボットを20台ですね、大体2人で1台使用できる形で納入していきたいと思っております。また、中学校につきましてはレゴブロックという形で、タイヤをつけて走らせることができたりだとか、積み上げてブロックを歩かせたりだとか、そんなことができるアイテムを、それも同じように2人で1台が使用できるような形で整えてまいりたいと思っております。

それ以外にも、今既存でリースで配置してありますプリンターだとか教員が使うパソコンですね、そちらのほうも入れ替えてまいりますので、全てがプログラミングで活用する費用ではないというところがございます。

もう一点がプールについてでございます。どのような形でスタートしていくのかというところで、今年度は1つの小学校、舟入小学校を夏の期間で実施いたしました。今回は全小学校になりますので5つの学校になります。当然クラス数も増えてまいりますので、通常のプ

ールですと夏だけ、7月だけしか行わないんですけれども、今計画立てているのが、大体ゴールデンウイーク明けぐらいから12月ぐらいまでの中で学校の今決められている学校行事を除いたできるところで、各学校ごとで学年単位で移動してプールができればなというところで今動いております。

以上でございます。

○1番 多田陽子君

ありがとうございます。

プログラミングに関してなんですけれども、今小学校ではロボット2人で1台分ぐらいの小さなロボットを動かす、そして、中学校になるとレゴ教材を使用してというところに、この2つに関連性があるのかなと思ひまして、例えば今の中学生というのは、そういったプログラミング教育を受けてこずに今中学にいて、突然レゴブロックでこういうことをすることになる、でもそれは今までやってこなかったけれどもできることとなると、これは今年度限りといいますか、来年度以降とかはちゃんと成長した上で中学生はもっとハイレベルなことを計画していくのかということも気になります。

それと、プールなんですけれども、確かに子どもたちがいつも6月とか寒い中、雨もちょっと降ったりしている中に、一生懸命プールに入ってがたがた震えていたところを見ると、そのようにゴールデンウイーク明けから12月までの予定で立てていただけるのはありがたいなと思ひますが、それをきっかけに、せつかなのでとても暑い時期の運動会だとか1年の行事を総合的に見直してもいいんじゃないかなと思ひますので、提案させていただきます。

○教育部次長兼教育課長 館林久美君

いろいろとご心配いただきまして、ありがとうございます。やはりお母様ならではの視点があるのかなとちょっと考えます。

中学校につきましては、いきなりレゴブロックが大丈夫かというところなんですけれども、もちろん小学校につきましても中学校につきましても、突然本当にその媒体がやってくるものですから、やはり子どもだけじゃなくて教職員もやはり戸惑うのかなと思ひます。そのあたりにつきましては、支援員のほうをつけさせていただいて事前に研修をして、さらには授業にも支援員が付き添って対応できるような形で進めてまいりたいと思っております。ありがとうございます。

あとは、プールですね。プールに付随して運動会の時期をというところですね。運動会も少し前までは9月の本当に暑いさなかだったんですけれども、そこよりは少し時期をずらせていただいて10月というところにさせていただいているのが現状なんです。中には本当に春先の5月ぐらいにやっている地域もあるみたいなんですけれども、少し10月で様子を見させていただいて、練習の時期が暑かろうというご心配だと思いますので、そのあたりのとこ

ろも踏まえまして検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

○1番 多田陽子君

ありがとうございます。よろしく申し上げます。

あと一つ、すみません、確認し忘れていました。プールはバスとかで移動する予定で、ここにそれが含まれているということでしょうか。

○教育部次長兼教育課長 館林久美君

移動については、蟹江小学校は本当に徒歩で行けるのかなと想像しますけれども、それ以外のところはバスでの移動になります。

○6番 板倉浩幸君

6番 板倉です。

私もまず同じ213ページの小学校のプール、令和5年度、舟入小学校がよかったよということで全校5校全てということで。どうやっていくのかなと、5校も一遍になるとということで、今、多田議員のほうからも質問あったように、5月ゴールデンウィークぐらいから12月ということといいと、それで5校全て多分できるのかなと思うんですけども。

民間で多分蟹江小学校は歩いていけるなということはケーニーズだと思んですけども、もう一つアシストもあると思いますよね。その辺との協力ができなかったのか、当初ケーニーズだけという話も聞いてたんですけども、その辺のまず確認。

あと、施政方針で町長の答弁でもあった、今夏休みの補習、プールの補習も開放もしてないよということであったんですけども、コロナ前までは蟹江小学校や何かは夏休みのプール開放というかプールの出校日があったと思います。なぜかという、この地域特有のゼロメートル地帯で、じゃ泳げない子をどうプール指導するのか、とても2コマで回数が4回かな、実際これだけで本当に泳げるのかなと思うこともあるし、あと、昔だったら夏休みに開放したりプール出校日があって、そこで補習的なことで一生懸命泳いだ、練習していた記憶があるんですけども、その辺をちょっと確認させていただきたい。

あと、221ページの中学校の体育館の空調設計なんですけれども、これも施政方針でいろいろ皆さんから聞いて町長も真摯に答えてくれたんですけども、まず中学校の2校、蟹中と北中で、目的が学校の特に中学校の部活動とかそんな関係で体育館にもエアコンをというのか、避難所としてエアコン設置するのか、どちらが主にやっていくのかお願いをいたします。

○教育部次長兼教育課長 館林久美君

それでは、ご質問いただきました、まず、プールについてお答えさせていただきます。

ケーニーズ以外にもう一つの業者、アシストのところの検討というところなんですけれども、もちろんそちらの施設のほうが近い学校もございますので、当然やっぱり時間のロスのところを考えますと、そちらもとても効果的で、私どもあたりはしたんですけども、や

はりご事情でちょっと難しいというところがありましたのでこういった形になっておりますというのが現状でございます。

もう一点の夏休みのプール開放についてなんですけれども、実際にコロナ前までは、板倉議員がおっしゃるようにプール開放をやっていたと思います。ただ、もうその頃から本当に夏の暑さというのは厳しい状況でありましたので、登下校、夏休み中に子どもが家を出て学校まで歩いてくる、そのところの懸念もあって、予定はしていたんだけどもやれていないという回数が多かったんじゃないかなと思っております。

ですので、今後泳げない子はどうしていくのかという問題もあるんですけれども、やはりそういった民間事業者にご協力いただく水泳授業の中で、より効果的に行っていただけたというのがやはりインストラクターさんの役目だと思いますので、そのお力を借りながら毎年積み重ねながら泳力につなげられたらなということをちょっと考えております。

もう一点の中学校のエアコンのところでございます。目的として部活動をメインとするのか、地域の方の避難所としての機能、そちらを重きに置くのかということところは、本当にどちらとも捉えられるところなんですよね。毎日のことを考えれば、本当に児童生徒のことになるかと思うんですけれども、やはりそれだけではなく、有事の際にも活用できるということを念頭に置きまして進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○6番 板倉浩幸君

まず、プールについては、そういうことで近いところもあるんだけど、なかなかまとまらなかったんだね、話が。今後、名前、ケーニーズとちゃんと言ったらいい、なんだけれども、じゃ2コマで本当に、前にも最初、舟入導入するときに2コマの授業で移動時間も入れているんだよね。その辺で、実際泳げる時間が本当に充実できているのか。今次長の答弁でいくと、じゃそういう補習授業を例えば授業じゃなくて、それも頼む、頼むというか、やっぱり泳げないと本当にどうしてもいけないと思うし、ちょっとそういうのも考えられないのかなということ。

あと、体育館のエアコン設置、両方重きを置いてということで行くと、じゃ、避難所でもあり町民の方も利用している蟹江町のすぐ前の体育館ね、それも一緒に考えないけないんじゃないかなと。そこと中学校まず2校ね、それで進めると結構より充実してくるんじゃないか、予算の関係もあると思いますけれども、ちょっとその辺をお願いいたします。

○教育部次長兼教育課長 館林久美君

まず、お一つ目のプールの2コマでということなんですけれども、私も今年度実際に舟入小学校が指導していただいたところをちょっと見させていただきました。学校の通常の授業ですと1コマ45分、その中で事前に着替えて入水して、その後着替えてというところで、

恐らく本当にプールで活動ができるのは30分程度なんじゃないかなと思うんですけども、2コマ利用することで、たとえ移動時間があったとしても40分、50分ぐらいは入水が一度に可能になりますので、そちらのほうがちょっと効果的なのかなというのが感じたところでございます。

もう一つ、町の体育館も一体で考えるべきではというところだと思うんですけども、こちらも先日の加藤議員のところでもお話をさせていただいたんですけども、まずは中学校区のところで1つずつ実施させていただいて、その後蟹江町の体育館も併せた小学校、そこでまた優先づけさせていただいて取り組みをさせていただきたいと思っているのが今の現状でございます。

以上です。

○6番 板倉浩幸君

プールについては、多分先生よりやっぱり専門のインストラクターが教えてくれて、より充実して教えられるのかなと思いますので、その辺も引き続きお願いしたいと思います。

体育館については、今そういう答弁だった、まず中学校の2校終えて、今年度基本設計を行って令和8年までに完成させたいと言っていたのかな。結構話をすると、じゃ蟹江町の体育館は後なのと、よく聞くんですよ。確かに同じ避難所であって、そういうことも含めると、まず3つ一緒でもよかったのかなと思うところがありますので、その辺を引き続き検討していただきたいと思います。

○5番 飯田雅広君

3問目ですけども、図書館でちょっとお聞きしたいんですけども、ずっと予算決算のときに図書館に関してはDXを進めてほしいということを常々申しておりますので、今回のこの令和6年の予算で何か図書館のDXが進みそうな、進んでいるような予算があれば教えていただきたい。

あと、要望ですけども、多分やってはいただけないと思うんですけども、同じこの愛知県で活躍されていました鳥山明先生が亡くなりましたので、本当にオタクは日本文化だと私は思っておりますので、ぜひとも追悼のコーナーか何かを、やってはいただけないと思うんですけども、つくっていただけたらなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○教育部次長兼教育課長 館林久美君

DXの取り組みのところにつきまして今年度図書館の事業のところでは何か取り入れたかというところは、申し訳ないですけども、今のところございません。今後また何か検討してまいりたいと思っております。すみません。

あと、もう一点、鳥山明さんの追悼コーナーというところも、議員にはいつも本当に図書館に漫画はというご意見何度かいただいているのも承知しているんですけども、現状のままですすみません。特に何か鳥山さんについて、ドラゴンボールでしたっけ、というところを

何か取り扱うというところの検討も現段階ではしておりません。すみません、いいお答えじゃなくて、すみません。

○8番 吉田正昭君

8番 吉田です。

209ページの日本語指導員養成講座委託料と学習支援委託料ですね、こちらのほうの予算関係資料で言いますと82ページになります。

ここでちょっとお聞きしたいのは、日本語指導員養成講座、6年度も開かれるということなんですが、人数はどれぐらい。ここにありますように、令和4年度は参加人数10名ということ、10人ということですので、それぐらい予定してみえるのかなということ。

それから、学習支援委託料ですね、これはどちらに委託して、どのようにやってみえるかなということ。

もう一つ、その下のほうですね、プレスクール事業が令和6年度より子ども課から移行事業になったということなんですが、これに対することですね、これはどうしてなったのかというようなことをお聞きしたいと思います。

○教育部次長兼教育課長 館林久美君

それでは、まず、日本語指導員養成講座の件でございます。こちら、令和5年度も予算計上させていただいているんですけども、現在小中学校に指導いただいている先生方の数が充足されておりますので、今年度のところにつきましては事業の実施はしておりません。ただ、令和6年度につきまして少し今年度限りでおやめになる先生がおみえになりますので、もしかしたら不足するということであれば、事業を実施して指導員の増加につなげてまいりたいと思っております。

そして、2つ目の学習支援事業でございます。こちらは夏休みに外国籍のお子様たちに対しまして40日の夏休みの中で6回なんですけれども夏休みの課題の取り組みの協力をさせていただくという事業でございまして、かにえ子ども日本語の会の皆様方のお力を借りて実施いたしております。特に夏休みの宿題のポスターを書いたりだとか工作を作ったりだとか作文を書きましょう、そういったものについては外国籍のお子様についてはやっぱりなじみのないことですので、いきなり出されても少し難しかろうというところでお手伝いをする事業でございます。

もう一点、プレスクールにつきましては、今年度まで子ども課で担ってございましたけれども、こちらの事業が未就学のお子様の就学につなげるための事業でございまして補助金をいただいて事業を行っているんですけども、その補助金の先が文部科学省でございますので、やはり学校現場の先生方にもより知っていただきたいというところもありますので、教育課のほうで担っていくことになりました。

以上でございます。

○8番 吉田正昭君

ありがとうございます。

日本語指導員養成講座なのですが、これ日本語指導補助員が小学校は10名と中学校は7名というような数字が記入されているんですが、実際この資格を持ってみえる、蟹江町として例えば雇用するという、小学校、中学校で雇用するという人数は、これ以上の方がみえると思うんですが、実際登録とかどういふふうかちょっと分かりませんが、何人ぐらい実際はみえるのかなということですよ。それ、ちょっとお聞きしたいと思います。

○教育部次長兼教育課長 館林久美君

日本語指導員の講座を受講された方というのは、恐らく本当に30名、40名ぐらいおみえになるのかなと思います。ただ、今年度、来年度のところで学校でお力添えをいただいておりますのが、小学校で10名、中学校で7名ということになります。ただ、これ17名じゃいるのかとなると、そうではなくて小学校でもかけ持ちをしている先生方もおみえになりますので、ちょっと重複する人数になっているのかなと思います。

ただ、スクールサポーターさんとは違って、本当に日本語指導員の方は取り出しの授業のところで必要になってくるので常時必要というわけではございませんので、少し日数や時間数もスクールサポーターと違って少ない計上となっております。

以上でございます。

○8番 吉田正昭君

この事業は、4年度の決算でいきますと60万5,000円ぐらい、そして、5年度の予算が77万2,000円、6年度が121万円ということで、毎年々々増えてきているということは、蟹江町にもそれだけの子どもさんというか外国籍の方が小中学校に通ってみえるということで、事業費を増やしてサポートしようかなという事業で、だんだん今町内にも外国籍の方がたくさんみえると思いますので、しっかりこの事業をしていただきたいと思います。

もう一つ、人数的に余裕があれば、もっと手厚い指導ができるように日本語指導補助員を、多分学校の授業割とかいろんな関係があるのでこの程度の人数ということに記入されているかと思うんですけれども、先ほどの答弁でもいろいろカウントしてやってみえるみたいですが、余裕があればもっと増やしていただいて、もっとやはり日本になじんでいただいて、日本のこれから成長の一端を担うような形になってくるかなと思っていますので、その辺のことをちょっと考えながらこの事業をしていただきたいと思います。

○9番 加藤裕子君

9番 加藤裕子でございます。

235ページになります。新規事業ということで子ども読書活動推進計画策定事業というところがあるんですけれども、今まで子どもたち小学生は朝読の時間であったりとか、過去にはPTAの読み聞かせなどが行われていたかと思うんですけれども、今回どのようなところ

に委託をされて、どのような形で読書推進をされていくのかなというところをお聞かせください。

○教育部次長兼教育課長 館林久美君

蟹江町子ども読書活動推進計画の策定についてお答えさせていただきます。

こちら第2期の策定になりまして、現存する計画が今既にあるんですけども、前回の策定期間と同じようなスケジュールで計画書の策定には取り組みたいと思っております。これをつくることで、子どもがより本に慣れ親しんで読書をする機会を設けていきたいなというところがございます。

以上です。

○9番 加藤裕子君

ありがとうございます。本当に本離れ、読書離れしている子どもたちが多くて、今はゲームの環境がすごく増えてしまっているところがございます。うちの息子たちも本当にゲームばかりで、本を読んでほしいなというところを母としても思うところがございますので、また、PTAの方々ですね、今まで読み聞かせという研修という事業もありましたが、私の息子の通う新蟹江小学校では、もうそのような委員会等もう昨年度までで終わりになってくるような時代になってまいりましたので、ぜひ期待したい事業の一つだと思います。よろしくお願いいたします。

○議長 水野智見君

他に質疑はありませんか。

(発言する声なし)

他に質疑はないようですので、9款教育費を終わります。

続いて、10款公債費、11款予備費、260ページから263ページまでの質疑を受けます。

○6番 板倉浩幸君

初めて聞くんですけども、263ページに予備費800万円、毎回800万円ついているんですけども、これの使い道というか、本当に何かあったときのためだと、基金崩して入れればいい、この予備費の使い方をちょっとどう考えるのか、お願いをいたします。

○総務課長 藤下真人君

ただいま板倉議員から予備費についてご質問がありましたので答弁させていただきます。

予備費につきましては、緊急を要する事態が起きた場合、議会の議決なく使えるものとなっておりますので、一般的に当町で使うということはないんですけども、ここ最近では実績としてはコロナ禍のときに緊急で使わせていただいたもの、また、今年度、また決算のときにご報告させていただくんですけども、学校の関係で緊急で安全面の関係で予算がない場合に使わせていただく、そういったときに使用させていただくもので、基本的にそういったものになります。

以上です。

○6番 板倉浩幸君

よっぽどのことがない限り、一応何かのためにということで積んであるだけなんですよね。議会の議決もなく何とでも本当にこれをどこに充てようとなったときに使えるということで、とりあえず、とりあえずと言っちゃいけないんだけど、そういう認識でいいと思いますので、お願いします。

○議長 水野智見君

他に質疑はありませんか。

(発言する声なし)

質疑がないようですので、10款公債費、11款予備費を終わります。

以上で議案第19号「令和6年度蟹江町一般会計予算」の質疑を終結します。

ここで、消防長、教育部次長兼教育課長、消防次長兼消防署長、給食センター所長、生涯学習課長、消防本部総務課長、子ども課長の退席と、産業建設部長、上下水道部長、水道課長、下水道課長、保険医療課長、健康推進課長、介護支援課長の入場を許可します。総務課長は席を移動してください。

入れ替えのため、暫時休憩します。

(午後1時51分)

○議長 水野智見君

休憩前に引き続き会議を開きます。

(午後1時54分)

○議長 水野智見君

ここで、理事者から5款の中で答弁の訂正をしたい旨の申し出がありましたので、許可しました。

説明を求めます。

○産業建設部長 肥尾建一郎君

それでは、答弁の修正をお願いいたします。

先ほど5款農林水産費におきまして吉田議員からご質問いただきました、157ページの多面的機能支払交付金の内容についてですが、答弁に一部誤りがございましたので訂正をさせていただきます。

交付金の対象となる区域ですが、地元要望があれば検討するとの答弁をさせていただきましたが、交付金の採択要件におきまして農振農用地区域の一団の農用地や地域資源の資質向上に取り組む組織を有するなどの条件がございますので、町内農地全てが検討できるものではありませんので、訂正をさせていただきます。大変申し訳ございませんでした。

○議長 水野智見君

続きます、日程第2 議案第20号「令和6年度蟹江町国民健康保険事業特別会計予算」を議題とします。

提案説明は既に済んでいますので、直ちに質疑に入ります。

ページは、281ページから323ページです。

歳入歳出とも一括で質疑を受けます。

質疑は1人3回までとします。

○6番 板倉浩幸君

6番 板倉です。

まず、国保について今回条例改正もあったんですけども、そのときにもお話をしました、285ページのいわゆる国保の質問のときにいつも言う、一般会計の法定外繰り入れについてまずお伺いいたします。今回3,000万円ということになっております。国は法定外繰り入れを早期に解消という中で、3,000万円ということで繰り入れをしています。ただ、毎年どんどん、多いときには1億円というときもあったんですけども、7,000万円、5,000万円、今年度令和6年度の予算で3,000万円となっております。これについて、5,000万円から3,000万円になった理由というか、3,000万円にした経緯をお願いいたします。

○保険医療課長 後藤雅幸君

ただいまのご質問についてお答えをさせていただきます。

一般会計からの繰入金令和5年度におきましては、予算額におきまして5,000万円を計上させていただき、また、令和6年度の予算額では3,000万円ということで2,000万円の減額という形になっております。こちらの2,000万円の減額の理由としましては、当初税の減額の見込みに充てるものとして2,000万円相当を見込んでおりましたが、過去の実績などを考慮しました結果、そこまでの金額は要らないということが分かりましたので、今回2,000万円の減額という形で、実際の実績に見合った法定外繰り入れをさせていただいたところでございます。

以上でございます。

○6番 板倉浩幸君

減額の分でそこまでは要らないよ、じゃもうちょっと充実させればいいんじゃないのという事になってしまうんですけども。

それを踏まえたことで、今回、蟹江も子どもの医療費がさっきも質問あったんですけども、18歳までの医療費が無償になっています。これね、独自に続けたんですけども、そこに国庫負担の減額に対するいわゆるペナルティがずっとあったんですよ。それが今年度4月からなくなりますよね。実際にその軽減措置、この間されたものが今回なくなって、実際にこの予算を立てるに当たって、そのペナルティ分が実際今まで幾らぐらいあったのか、分かりましたらお願いします。

○保険医療課長 後藤雅幸君

今、板倉議員がおっしゃられましたように、子ども医療費、これは市町村が独自に行う事業に対しまして、その波及効果に関して国保の負担額が増えるので国のほうが国庫負担を減らすよというものでございましたが、この4月からそういった波及効果につきましてはペナルティをしませんということでございます。

ただ、確かにそういった波及効果があるということは、国及び県、また市町村においても把握はしておるところですけれども、愛知県のほうでもその波及効果というものが幾らぐらいかというところを実際ちょっと試算しようと検討しているようなんですが、実際幾らかというシミュレーションが県でも困難ということを言っております。ただ、国からのそういった補助等から逆算した結果、1人当たり4円ぐらいだというようなことも言っておりますけれども、ただその4円というのも本当にそうなのかというのもちょっと疑問が残る数字ですので、正直なところ波及効果が幾らかというのは、ちょっと金額を申し上げるのは難しいところではございますが、減額の効果というのが今後ペナルティとしてはなくなるということだけ申し上げたいと思います。

以上でございます。

○6番 板倉浩幸君

そんなことがあったんだよね。今までずっとこんなのおかしい、おかしいと市町村が独自に行ってきた子育て支援、異次元の子育て支援というなら本当にそんなことあっちゃいけないかったやつで、1人当たり4円、これ県に聞いても本当に分からんと言っていた。

実際にそれじゃある程度はその分国保会計に残ってくるのかなと思いますので、じゃ実際その財源を使ってもうちょっと何かできないのかな。例えば子どもの均等割が今未就学児まで半額かな、蟹江町も2分の1の4分の1出しているんですけれども、一般会計。その辺を含めて子育て支援ということで子どもの均等割も何とか頑張って支援できないかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。それ、答弁あったらお願ひいたします。

○保険医療課長 後藤雅幸君

ただいまご質問の中で均等割の子どもの減額の拡大というご要望がございましたけれども、こちらの拡大ということにつきましては、現状では国の制度に沿ったものとして考えていきたいというふうに、まずは考えております。

以上でございます。

○議長 水野智見君

他に質疑はありませんか。

(発言する声なし)

他に質疑はないようですので、以上で議案第20号「令和6年度蟹江町国民健康保険事業特別会計予算」の質疑を終結します。

○議長 水野智見君

日程第3 議案第21号「令和6年度蟹江町土地取得特別会計予算」を議題とします。

提案説明は既に済んでいますので、直ちに質疑に入ります。

ページは、331ページから341ページです。

歳入歳出とも一括で質疑を受けます。

質疑は1人3回までとします。

(発言する声なし)

質疑がないようですので、質疑を終結し、以上で議案第21号「令和6年度蟹江町土地取得特別会計予算」の質疑を終結します。

○議長 水野智見君

日程第4 議案第22号「令和6年度蟹江町介護保険管理特別会計予算」を議題とします。

提案説明は既に済んでいますので、直ちに質疑に入ります。

ページは、347ページから379ページです。

歳入歳出とも一括で質疑を受けます。

質疑は1人3回までとします。

○6番 板倉浩幸君

6番 板倉です。

介護保険についてお聞きいたします。

介護保険料条例改正で今議会に提案されております。保険料はこの間ずっと質問してきて、今回ちょっと違った目線で総括になるんですけども、介護保険そのものの。今介護保険料もそうなんですけれども、いざ使いたくても使えないと、僕もよく利用料の面も含めて言っています。そのほかに、今介護保険事業者がどこの市町村でも介護事業者が今の物価高等、また人的不足でやっていけない状況で、もう撤退していかなできないという状況が生まれていて、これからまだまだ介護利用が増える中で、現状、じゃ蟹江町ではこの事業者自体、介護報酬の面が一番あると思うんですけども、国の制度ですので、報酬についてちょっとずつ上がってはいますけれども、その辺について事業者の面からとしての今のこの介護保険をどう考えているのか、また現状が分かりましたらお願いいたします。

○介護支援課長 松井智恵子君

今ご質問のありました介護人材が不足しているのではないかということについてお答えをさせていただきます。

日頃から介護事業者及び事業に従事されている方におかれましては、日頃らご尽力いただきましてありがとうございます。介護人材が不足しますと必要な介護サービスが維持できなくなるおそれがあり、人材の確保は重要な課題であると考えております。

そこで、国はこの4月から介護報酬を、先ほど議員がおっしゃられたように改定すること

により、人材を確保し、働きやすい職場づくりに力を入れていくというところでございます。

町といたしまして何か独自でできるということはございませんけれども、介護人材に限らず少子高齢化が進む中、労働人口が減っていくというところで、どちらの業界でも人材が不足するということは大変重要な課題だと思っておりますけれども、町の介護保険事業といたしましては、国や県の動向を注視して事業者に対して情報を速やかに提供するなど、支援をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○6番 板倉浩幸君

介護、本当に事業者がなくなったら介護保険制度そのものが破綻すると思いますし、そういう意味で国も介護報酬の引き上げ、この4月からもされていますけれども、そんな大した額じゃないんですね。そういうことを含めて、今後蟹江町でも。

また、今後介護利用料も1割から2割になる、今回この第9期で提案があったんですけども、何とか先送りして、第10期で何とか利用料の1割から2割という話も出てきていますので、その辺でもっと使いやすい介護利用、利用するのに使いやすい介護保険制度を要望いたします、終わります。

○議長 水野智見君

他に質疑はありませんか。

(発言する声なし)

他に質疑がないようですので、以上で議案第22号「令和6年度蟹江町介護保険管理特別会計予算」の質疑を終結します。

○議長 水野智見君

日程第5 議案第23号「令和6年度蟹江町コミュニティ・プラント事業特別会計予算」を議題とします。

提案説明は既に済んでおりますので、直ちに質疑に入ります。

ページは、387ページから393ページです。

歳入歳出とも一括で質疑を受けます。

質疑は1人3回までとします。

(発言する声なし)

質疑はないようですので、以上で議案第23号「令和6年度蟹江町コミュニティ・プラント事業特別会計予算」の質疑を終結します。

○議長 水野智見君

日程第6 議案第24号「令和6年度蟹江町後期高齢者医療保険事業特別会計予算」を議題とします。

提案説明は既に済んでいますので、直ちに質疑に入ります。

ページは、399ページから415ページです。

歳入歳出とも一括で質疑を受けます。

質疑は1人3回までとします。

○6番 板倉浩幸君

後期ですが、ページ数でいくと、まず402ページに保険料があります。これね、前年予算額より8,400万円増えて、被保険者が増えているんですけども、なおかつ、歳出で408、409ページにある広域連合の負担金ね、10億4,200万円ということで、この辺のバランス、広域連合ということで愛知県、後期高齢と一緒に保険料なんですけれども、このバランスって今現状、ここの伸びなんかはどういう関係に今来ているのか、お願いいたします。

○保険医療課長 後藤雅幸君

まず、伸びですね。まず、保険料のほうからちょっと申し上げますと、こちら後期高齢の保険料に関しましては、2年ごとの見直しがございます。令和6、7年度に関しましては今年度と比べまして、所得割と均等割と二本立てで後期高齢は成り立っておりますけれども、所得割が現状が9.57%という所得割に対しまして来年度以降が11.13%と、今年度比でいきますと16.3%の伸びがございます。また、均等割に関しましても、今年度が4万9,398円に対しまして翌年度に関しましては5万3,438円ということで、今年度比でいきますと8.2%の伸びではございます。そういった状況を踏まえまして来年度の保険料のところではいきますと、そういったものを反映したものとなっております。

さらに、納付金に関しましては、原則としましていただいた保険料を全て広域連合に納付するものでございます。また、給付費に関しましても、基本的にはそのまま納付するという形になっておりますので、そういった状況を踏まえた相関関係の下、大幅に伸びているという現状でございます。

以上でございます。

○6番 板倉浩幸君

主に所得割が6、7年度、2年に一遍の改定ですので、6、7年度で所得割も均等割も上がっているんですね。それが保険料に反映されているんですけども。

あと、使ったときにもう、所得に応じてなんですけれども1割から2割になった2年目になって、じゃ本当に現状、医療控えが本当はないのかなと。今まで1万円払ったというのが2万円になるという状況で、一人一人それもかかってくる。こんな状況が後期高齢者医療保険なんですけれども、今後広域で今、広域、あんまり好きじゃない言葉なんですけれども、保険料がどこへ行っても同じ、国保もそうしてきているみたいなんですけれども、その辺を含めて、もうちょっと後期高齢の保険者に。

あと、最後にちょっと聞いておきたいのは、後期高齢でも2割、5割、7割減免ありますよね、均等割の。その人たちが今実際ちょっと蟹江町でもどのぐらいの割合でいるのか、分

かりましたらお願いして、終わります。

○保険医療課長 後藤雅幸君

すみません、ただいまご質問にございました、2割、5割、7割の軽減者数というご質問でいただきましたけれども、すみません、ちょっと今手元に人数というものではちょっと手持ちがないものですから、また後ほどお答えをさせていただきたいと思います。すみません。

○議長 水野智見君

じゃ、後ほどということでもいいですか。

(はいの声あり)

他に質疑はありませんか。

(発言する声なし)

他に質疑はないようですので、以上で議案第24号「令和6年度蟹江町後期高齢者医療保険事業特別会計予算」の質疑を終結します。

○議長 水野智見君

日程第7 議案第25号「令和6年度蟹江町水道事業会計予算」を議題とします。

提案説明は既に済んでいますので、直ちに質疑に入ります。

収益的収支及び資本的収支とも一括で質疑を受けます。

質疑は1人3回までとします。

○6番 板倉浩幸君

特別会計が終わって、6番 板倉です、水道事業についてお聞きをいたします。

今回の議会でも水道の条例改正がありますけれども、防災のほうで審議されていたと思いますけれども、ちょっと僕のほうからも、令和6年度から特に上水道の整備と管理が厚生労働省から国土交通省に移管されます。これによって実際上下水道が一体化に整備と管理がされてくるんですけれども、これによってまずどうなっていくのか、ちょっとこれについてお願いいたします。

○水道課長 寺本章人君

ただいまの板倉議員の質問のほうにお答えをさせていただきます。

まず、こちらの今回の改正によって、4月から厚生労働省のほうから国土交通大臣及び環境大臣のほうに移管されるというところなんですけれども、まずこちらの背景というところでお答えをさせていただきます。

まず、こちらの水道整備管理行政では、現在人口減少社会の到来に伴う水道事業者の経営環境の悪化、それから水道施設の老朽化、耐震化への対応、災害発生時の断水などの迅速な対応等、課題に取り組む必要が出てきます。これを、このたび厚生労働省のほうから国土交通省のほうに移管して一体的に整備を迅速に進める、より強固に進めるといったところで改正を行ったものでございますので、ご承知おきをいただきたいと思います。

以上でございます。

○6番 板倉浩幸君

一体化で、こういう今回の災害等も含めて上下水道を一体化にして管理していくんだと思いますよね。そこで、別に厚生労働省から国土交通省に変わっても、そんな今すぐどうのこうのではないんですよね、だと思います。将来的なことを多分国も考えていて、最終的には、ちょっと今反対運動が多くてあまり今言わなくなったんですけども、民間に移行、だいぶ前に一般質問もしたことあるんですけども、それがちょっと頭によぎります。

あと、今回聞いておきたいのは、今回の議案にはありませんけれども、予算でもね、県水が今回令和6年10月から2円だね、今年度の10月から2円、また再来年4月から4円値上げになります。決まったのかな。そんな状況で、過去にも2回に分けて1982年と2000年に改定をしているんですけども、これが最終的に6円上がった場合に蟹江町として水道料金にどう影響してくるのか、お願いをいたします。

○水道課長 寺本章人君

ただいまの板倉議員の質問のほうにお答えさせていただきます。

まず、議員おっしゃられたとおり、今年令和6年10月から2円、令和8年4月からさらに4円、県営水道料金のほうの見直しのほうとして、この2月県議会のほうに提案されております。こちらのほうの影響のほうなんですけど、これは令和4年度の決算ベースで私どものほう試算をさせていただいております。まず、令和6年度は半年間でございますので約500万円ほど、令和7年度はそれが1年間になりますので約1,000万円、令和8年ですね、合わせて2円、4円の6円上昇した場合には3,000万円ぐらいの水道料金、県営水道料金のほうが必要になるというふうに試算のほうはさせていただいております。当然のことながら、これだけの支出が増となりますので、私どもの経営のほう、水道事業の経営のほうには影響が出てきます。

そのような中で、配水管の老朽化対策、管路の耐震化の工事などは進めていかなければなりません。そういった中で、こちらの更新計画、それから収支の状況を見た経営のほうもしっかりと判断をさせていただいて水道事業のほうは進めさせていただきたいというふうに思っておりますので、ご承知おきのほうをいただきたいと思います。

以上でございます。

○6番 板倉浩幸君

令和8年、実質まだ審議中ですけども、多分ほとんどの水道事業者から、何でだ、今何で値上げなんだということを言っていると、蟹江町も要望していると思いますけれども。実質6円上がったら3,000万円不足してくるんだね、今から考えるとね。当面どんな状況かということも含めて検討していくんだと思うんですけども、県水の値上げも当初物価高、特に電気の高騰ということで赤字決算、当初県水も25億円の赤字が、電気代もだいぶん落ち着い

てきて最終的にマイナス4億円ということになりそうなんですけれども、だったらもうちょっと物価高騰で見直し、落ち着くまでということも考えてしまいますので、引き続き県水の値上げについては、蟹江町としてもすぐそうやって影響額があまりにもありますので、ぜひ今後も要望していただきたいと思うし、ちょっとその辺、最後に町長にその県水のことをちょっと聞いて、終わります。

○町長 横江淳一君

それでは、板倉議員のご質問にお答えしたいと思います。

総括になりますけれども、この話が昨年度出ました。我々愛知県の町村会としても企業庁の関係者を呼んで理由づけを聞きました。やっぱり立米2円と言いますが、やっぱり結構大きなものになりますし、当蟹江町も年々有収水量が減っておりますというのか、ペットボトルをたくさん飲まれるんですよね、皆さん、多分、水道を飲まれないということがありますので、結構割高の水道水を買うことには実は徐々になってくるんじゃないかなという、そんな感じがいたします。

蟹江町は水道会計ありますけれども、海部南水からも受水を受けておる地域もありますので、そこのバランスを考えながらやっていかなければいけない状況が我々の中では水道事業が続いております。

ですから、来年度の値上げ、再来年度の値上げの実施に向けての多分また町村会のほうに県の担当者が来て説明すると思いますが、非常に厳しい状況ですから、何とか折り合いする点が見つければ、それを模索していきたいなと思います。

厳しい状況が続くかも分かりませんが、精いっぱい頑張ってやりたいと思います。よろしくお願いします。

○議長 水野智見君

他に質疑ありませんか。

(発言する声なし)

他に質疑はないようですので、以上で議案第25号「令和6年度蟹江町水道事業会計予算」の質疑を終結します。

○議長 水野智見君

日程第8 議案第26号「令和6年度蟹江町下水道事業会計予算」を議題とします。

提案説明は既に済んでいますので、直ちに質疑に入ります。

収益的収支及び資本的収支とも一括で質疑を受けます。

質疑は1人3回までとします。

○6番 板倉浩幸君

6番 板倉です。

下水道です。この下水道の話も施政方針の中でちょこっと聞いたり、都市計画税再導入の

ときにも住民説明のときにもいろいろ、都市計画の導入の目的が下水道の話になっていっちゃっておったんだけど、それでちょっとお聞きをしていきたい、総括ということで聞いていきます。

下水道が今回施政方針のときにも、令和8年度まで国の補助も今のところ決まって補助事業で整備をしていっています。その後、実際本当にどうなるのか、それが国の補助がまだ多少なりとも出てくれば、まだ続けられて、都市計画税に頼らなくてもね、そんな状況もありますけれども、とりあえず今の段階では、令和8年度の事業計画という認識なんですかね。まず、お願いいたします。

○下水道課長 北條寿文君

それでは、お答えいたします。

下水道の計画は、今おっしゃっていただきましたとおり、まず今お示した3カ年ですね、こちらのほうまでは一定のめどを立てながら工事は予定どおり進めていくつもりで想定をしております。それ以降につきましては、今触れていただいた国の補助金の行方もまだ不透明でございますので、その状況を見ながらどこまで整備に取り組むのかということで、恐らく下水道事業計画そのものの見直しもしなければいけない時期が来るかなということを思っております。

いずれにいたしましても、まずは3年間しっかりと計画に沿って進めるということでお願いいたします。

○6番 板倉浩幸君

とりあえず当面は令和8年、どうなるかによって事業計画、本当に見直しが出てきちゃいますので、当初の方針がね。

そこで、あともう一点、今回やっぱり震災後のことで、能登半島地震で下水道が本当に悲惨な状況に今なっている状況で、蟹江町もまだ最近の話ですので、あのぐらいのマグニチュード7の地震が起きた場合に蟹江町の下水道自体、下水管が耐え得るものなのか、どんな状況になっていくのか、液状化も含めてあると思うんですけども、その辺ぐらいの耐震にはできているのか、水道管もそうなんですけれども、その辺が分かりましたらお願いします。

○下水道課長 北條寿文君

下水道施設の耐震化ということで、当然今この時期になりますと、皆様方、そこが一番心配かと思えます。ちょうど今住民説明会のほうも今週日曜日に控えているところでございますが、はっきり申し上げまして100%の安全というのは、やっぱりどんな道を通ってもないと思っております。ただ、結論から申し上げまして、当町の下水道事業は着手が遅かったがゆえに、当初からできる限りの耐震施策を施した上で施工がなされているということだけを申し上げたいと思えます。

まず、管きよにつきましては浮上防止、あとは揺れや振動に耐えられるだけの耐震性のあ

る管きよですね。あと、マンホールにつきましては、中が空洞になっておりますので液状化なんかになりますと当然それが浮力となって浮き上がるというのが被災地での現状でございますが、その水压を消散する効果がある、消し散らすということですね、そういった素材のマンホール、あとは、埋め戻しの土を掘ったものをそのまま埋めるのではなくて改良土と言いまして石灰成分の入った土、そのような土も使いながら埋め戻しを行って、あとは、碎石なんかもその土に混ざっているんですが、ですからマンホールなんかでもそうですけれども、管きよでもそうですが、地中の部分はなるべく水が抜けるような施工がなされております。地上に当たってはそこをしっかりと固めてあるということですので、いずれにしても震度7級の地震が起きてみなければ何とも申しがたいところがございますが、しっかりと今できる限りの質と施工を施した上で下水道が今整備されているということでご理解いただければと思います。

○6番 板倉浩幸君

どうしても本当に下水管どうなんだと、やっぱり今回テレビの映像見てもそうだし、そういうことでお聞きしました。

液状化で、その辺で本当に起きてそのクラスが来てみな分からんと、最近本当に防災のほうでも来てみな分からない、実際どうなるかと、この間も安心安全課の人も言ってたんだけど、そういう状況でも本当にどうなるか検討しながら、なった場合に早期復旧ができるような状態を整備していつていただきたいと思います。

以上です。

○議長 水野智見君

他に質疑はありませんか。

(発言する声なし)

他に質疑はないようですので、以上で議案第26号「令和6年度蟹江町下水道事業会計予算」の質疑を終結します。

○議長 水野智見君

以上で本日の日程は全て終了しました。

本日はこれにて散会とします。

(午後2時31分)